

(仮称) 泉佐野市こども基本条例  
こどもに意見を聴くアンケート調査結果

報告書

令和5年10月

泉佐野市こども基本条例庁内検討委員会

## 1. 調査目的

各設問について、子どもたちが現在どのような認識を持っているかを把握するため。また、子どもが通う各施設における、子どもに関する課題等に対する考え方も併せて把握することで、「(仮称)泉佐野市子ども基本条例」の制定資料の参考とするため実施しました。

## 2. 概要

### (1) 子どもへのアンケート

区分	内容
対象	①市内の小学校に在学する小学6年生(市内小学校全校〔13校〕対象) ②市内の中学校に在学する中学3年生(市内中学校全校〔5校〕対象) ③市内の高等学校に在学する高校2年生(市内高等学校全校〔3校〕対象)
方法	無記名アンケート方式により、各学校を通じて配付・インターネットによる回収

### (2) 施設へのアンケート

区分	内容	
対象	教育・保育関係者	小規模保育事業(1) 保育園(1) 幼稚園(2) 認定子ども園(16) 小学校(13) 中学校(5) 高等学校(3)
	障害支援機関	児童発達支援センター(1) 放課後等デイサービス事業所(24)
方法	無記名アンケート方式により、各施設へ配付・インターネットによる回収	

## 3. 実施時期

令和5年9月19日(火)～30日(土)(①小学6年生②中学3年生)(施設※高校を除く)

令和5年10月19日(木)～25日(水)(③高校2年生)(施設※高校)

## 4. 回収結果

### (1) 子どもへのアンケート

対象	配布数	有効回収数	有効回収率
小学6年生	838件	250件	29.8%
中学3年生	750件	140件	18.6%
高校2年生	710件	285件	40.1%
合計	2298件	675件	29.3%

※配布数は令和5年10月1日現在の児童数・生徒数としています。

### (2) 施設へのアンケート

対象	回収数
教育・保育関係者	41件
障害支援機関	25件
合計	66件

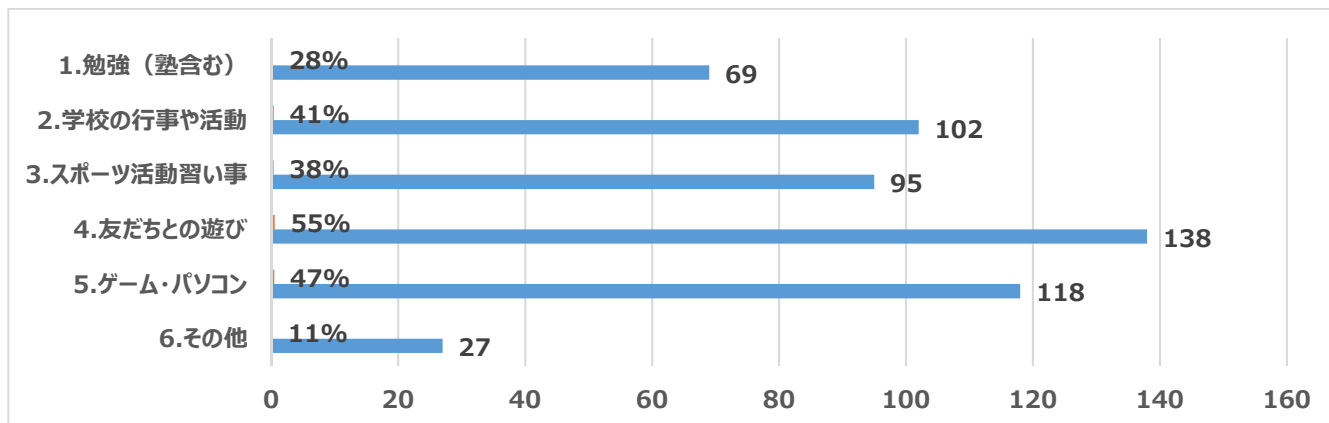
## 《調査結果》（1）こどもへのアンケート

### 1) 自分のことについて

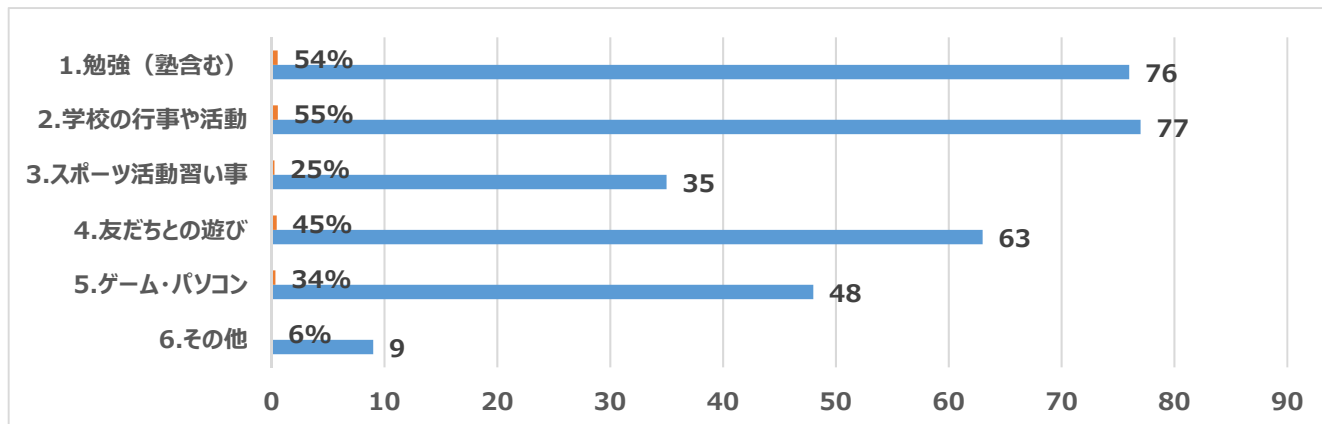
#### 1. 今、力を入れていること、楽しみにしていることはなんですか？（複数回答可）

小学生は、「友だちとの遊び」「ゲーム・パソコン」など私生活での遊びの割合が高く、中学生になると、関心が学校や学業に移り、「学校の行事や活動」や「勉強（塾を含む）」の割合が高くなり、高校生になると、「友だちとの遊び」「学校の行事や活動」など私生活での遊びの割合が高くなります。

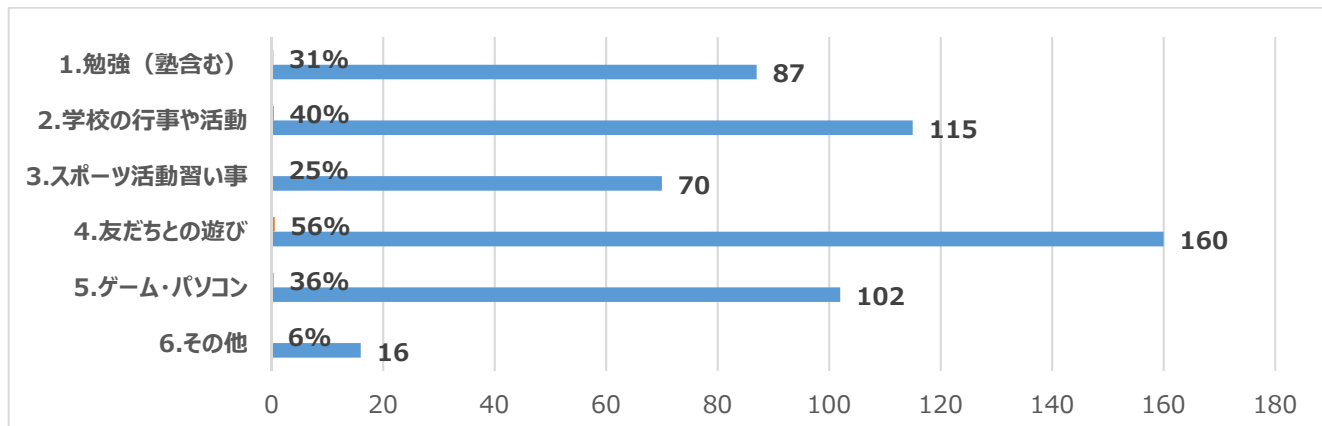
小学生は「友だちとの遊び」が 55%と最も多く、次いで「ゲーム・パソコン」が 47%、「学校の行事や活動」が 41%となっています。



中学生は「学校の行事や活動」が 55%と最も多く、次いで「勉強（塾を含む）」が 54%、「友だちとの遊び」が 45%となっています。



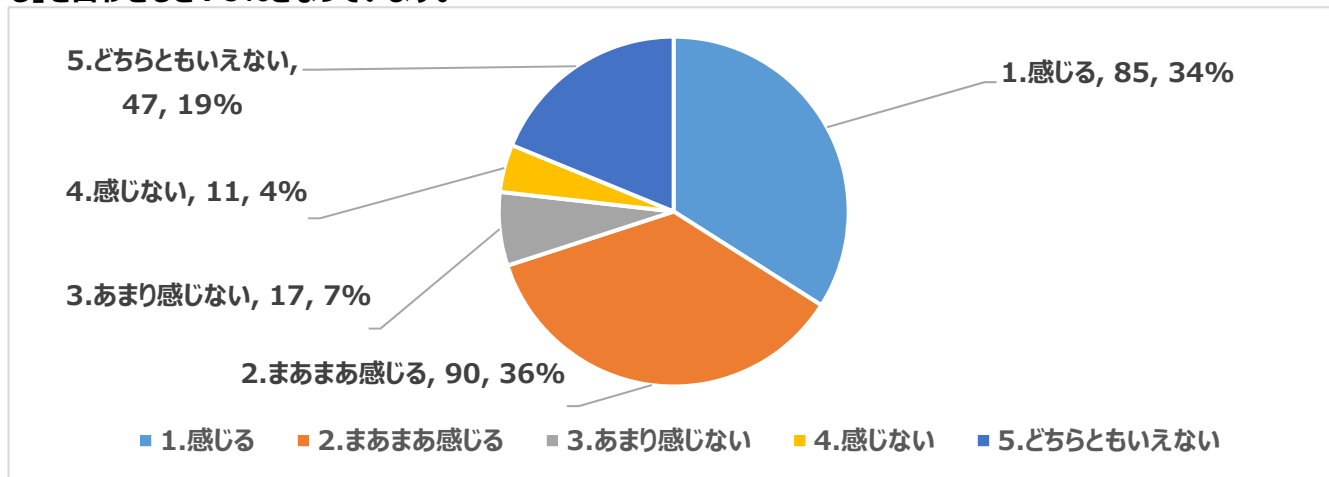
高校生は「友達との遊び」が 56%と最も多く、次いで「学校の行事や活動」が 40%、「ゲーム・パソコン」が 36%となっています。



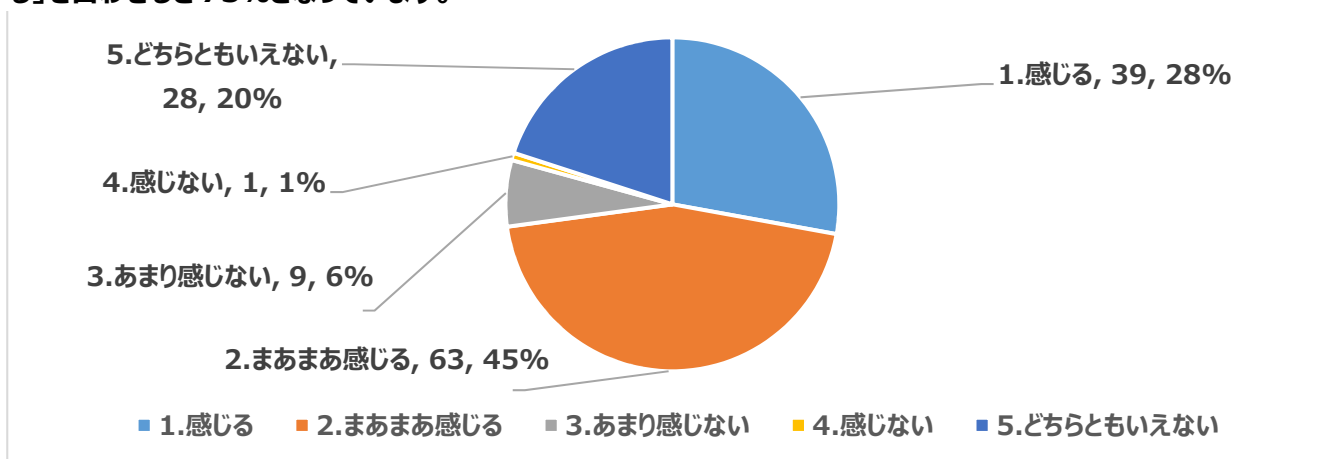
## 2.あなたの意見は大切にされていると感じますか？

小学生、中学生ともに、自分の意見を「まあまあ感じる」、「感じる」と回答した割合が7割以上、高校生も約7割と比較的大切にされていると感じているようです。

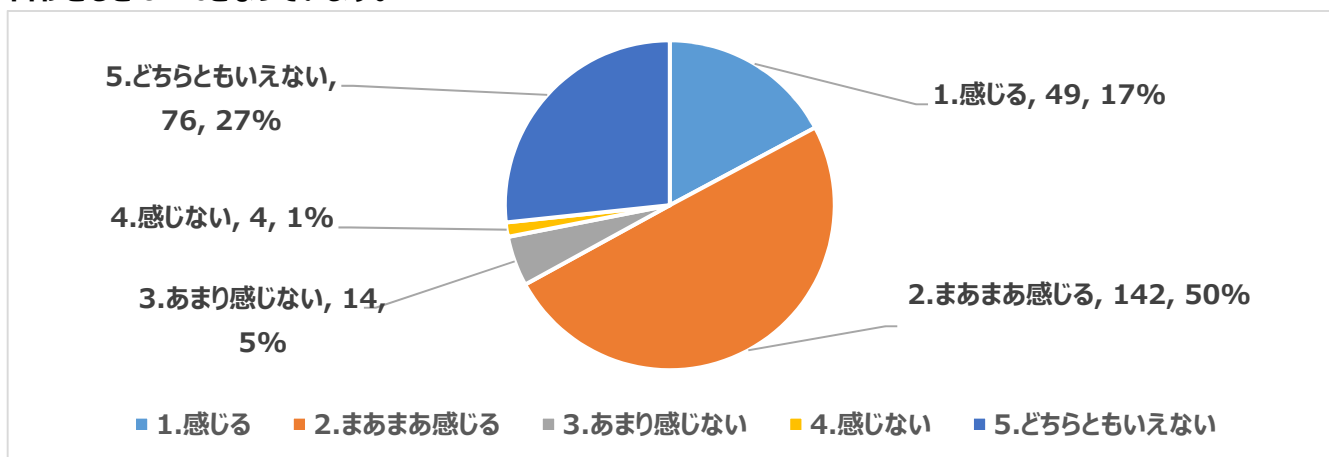
小学生は「まあまあ感じる」が36%と最も多く、次いで「感じる」が34%となっています。「感じる」と「まあまあ感じる」を合わせると70%となっています。



中学生は「まあまあ感じる」が45%と最も多く、次いで「感じる」が28%となっています。「感じる」と「まあまあ感じる」を合わせると73%となっています。



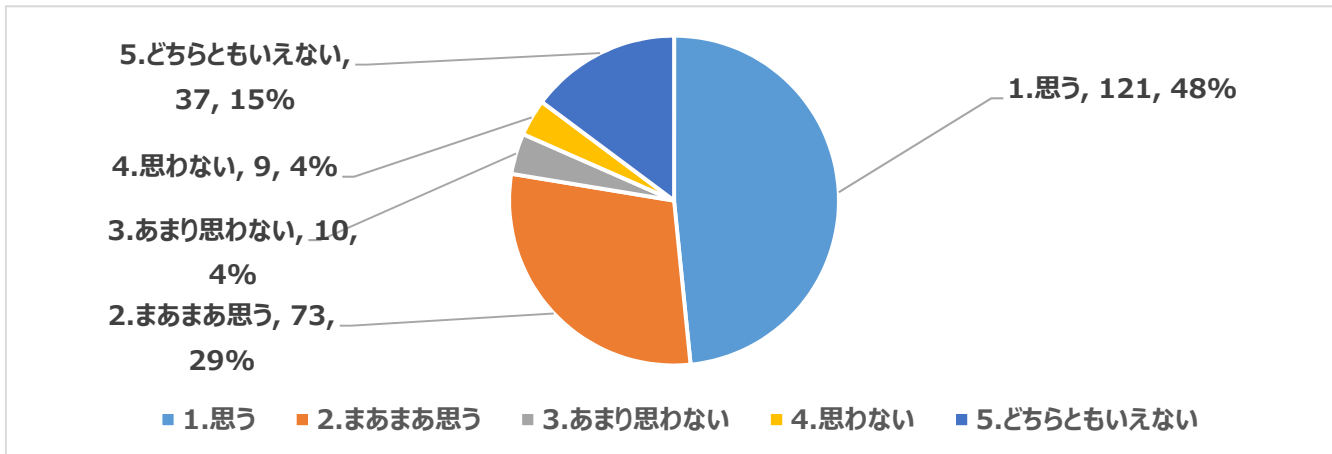
高校生は「まあまあ感じる」が50%と最も多く、「感じる」が17%となっています。「感じる」と「まあまあ感じる」を合わせると67%となっています。



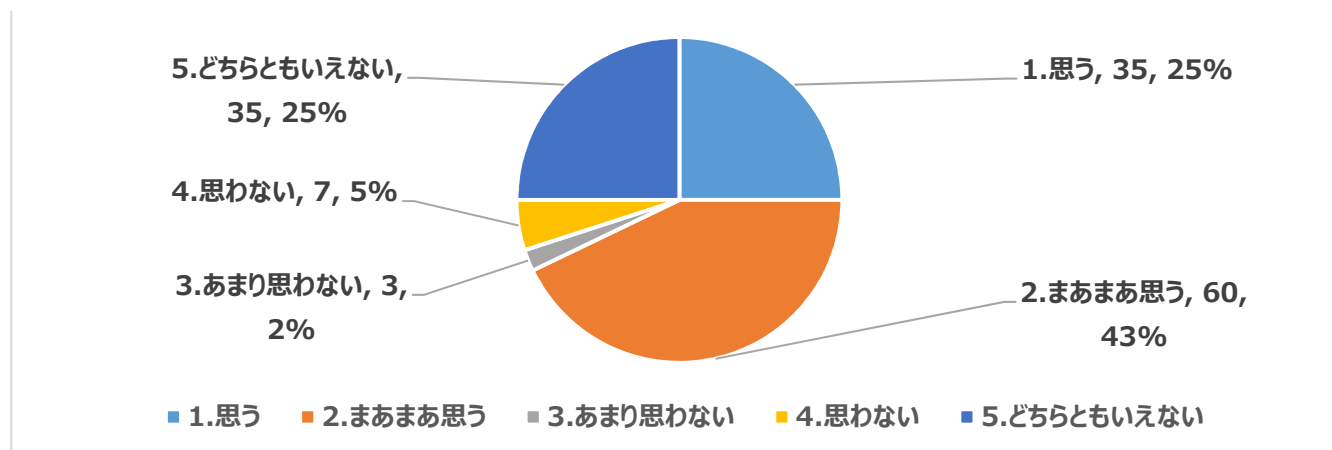
### 3.自分自身を大切にしていると思いますか？

小学生、中学生、高校生ともに、自分自身を大切にしていると思う、「まあまあ思う」と回答した割合が約7割となっており、比較的、自分自身を大切にしていると感じているようです。

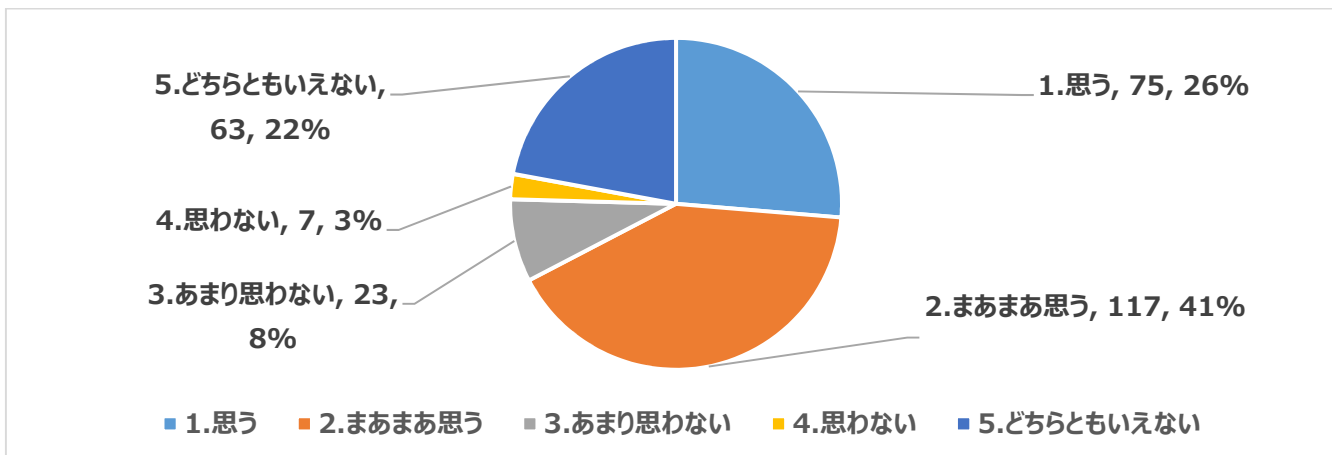
小学生は「思う」が48%と最も多く、次いで「まあまあ思う」が29%となっています。「思う」と「まあまあ思う」を合わせると77%となっています。



中学生は「まあまあ思う」が43%と最も多く、次いで「思う」「どちらともいえない」が25%となっています。「思う」と「まあまあ思う」を合わせると68%となっています。



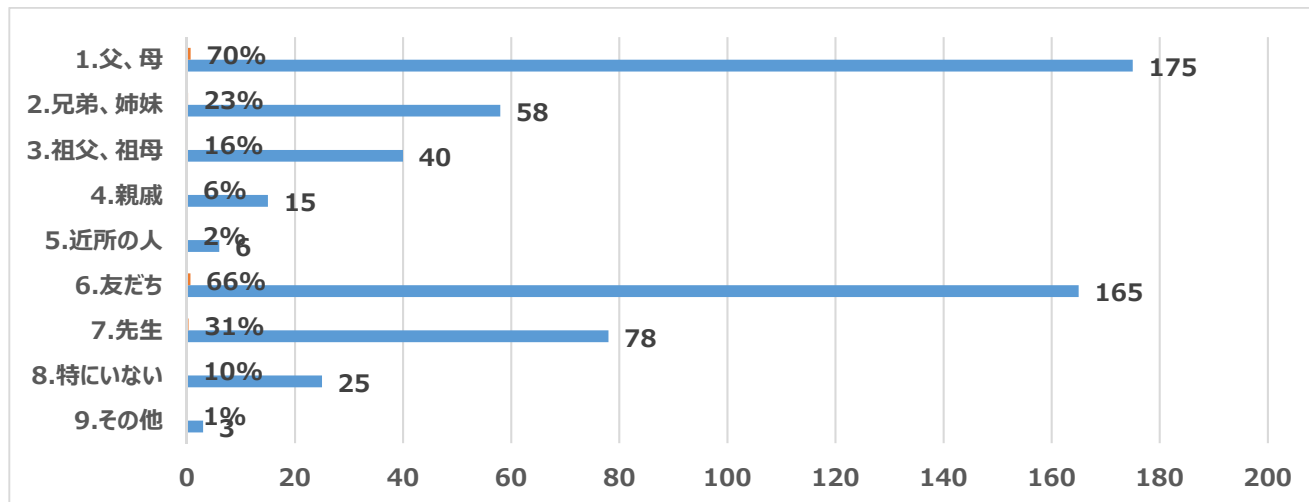
高校生は「まあまあ思う」が41%と最も多く、次いで「思う」が26%となっています。「思う」と「まあまあ思う」を合わせると67%となっています。



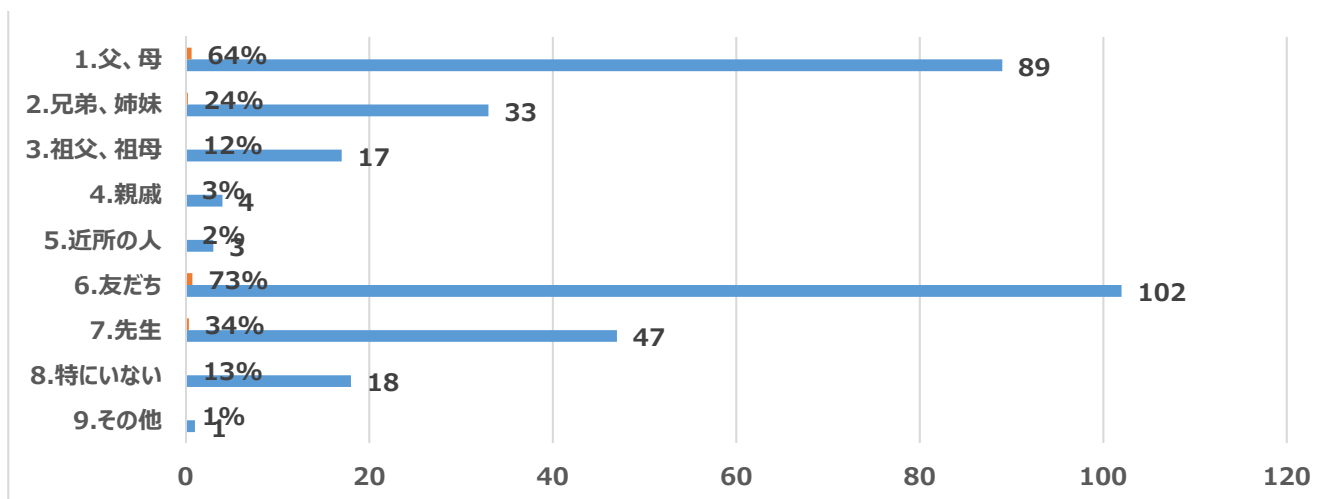
#### 4.あなたが困ったり、悩んだりした時に、相談できる人は誰ですか？（複数回答）

小学生では、「父、母」の割合が高く、中学生、高校生になると、徐々に減少し、「友だち」の割合が高くなります。年代が上がるにつれ「父、母」のほか「友だち」が身近な相談者になっていることが読み取れます。また、その他の相談者としては、小学生、中学生では、「先生」の割合が高くなっています。

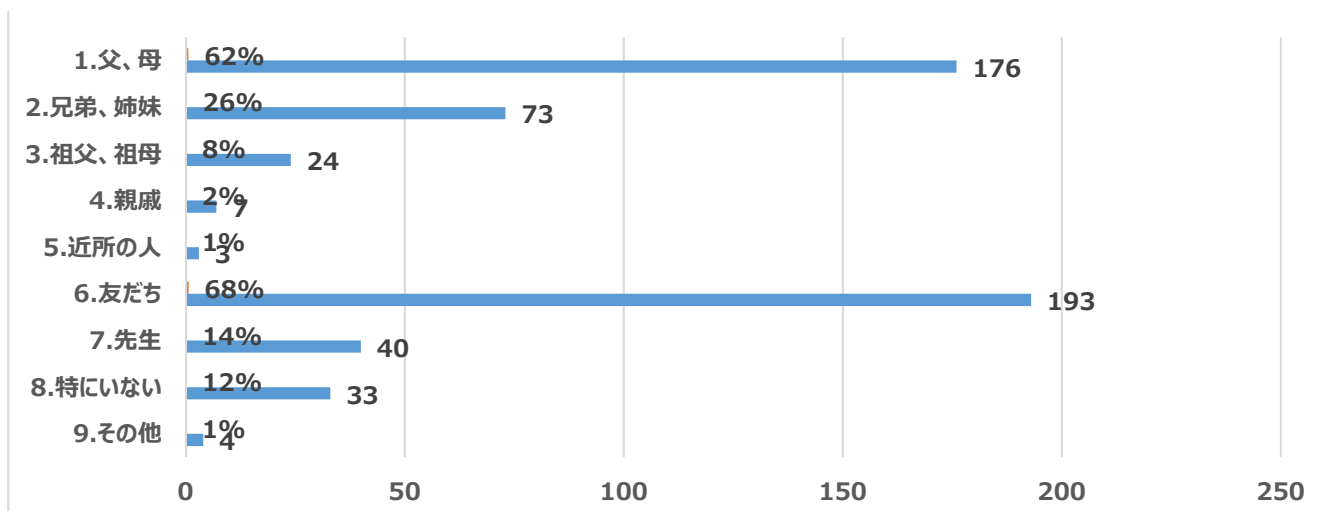
**小学生は「父、母」が70%と最も多く、次いで「友だち」が66%、「先生」が31%となっています。**



**中学生は「友だち」が73%と最も多く、次いで「父、母」が64%、「先生」が34%となっています。**



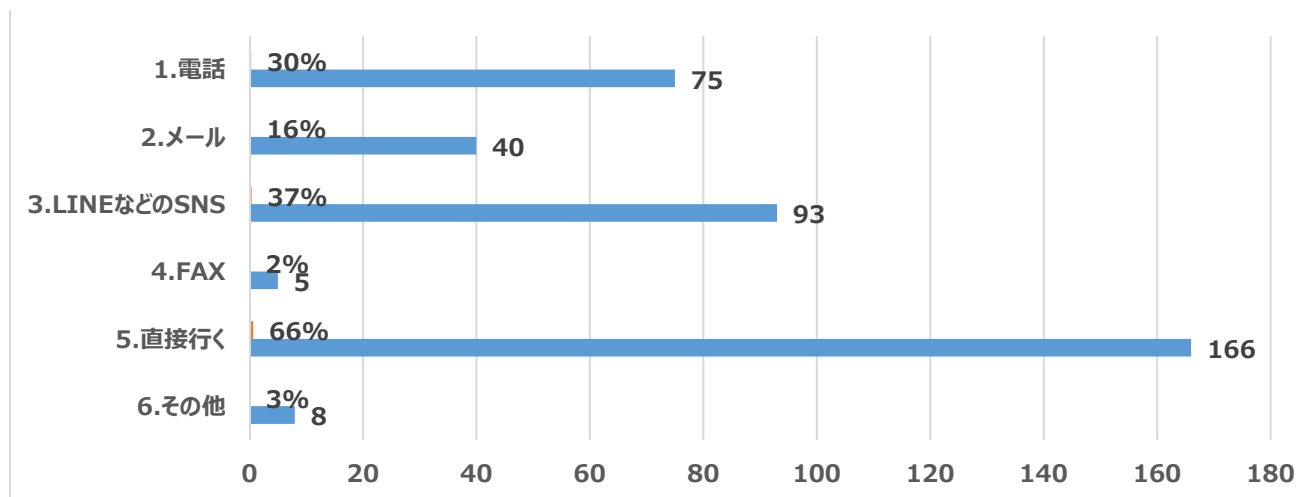
**高校生は「友だち」が68%と最も多く、次いで「父、母」が62%、「兄弟・姉妹」が26%となっています。**



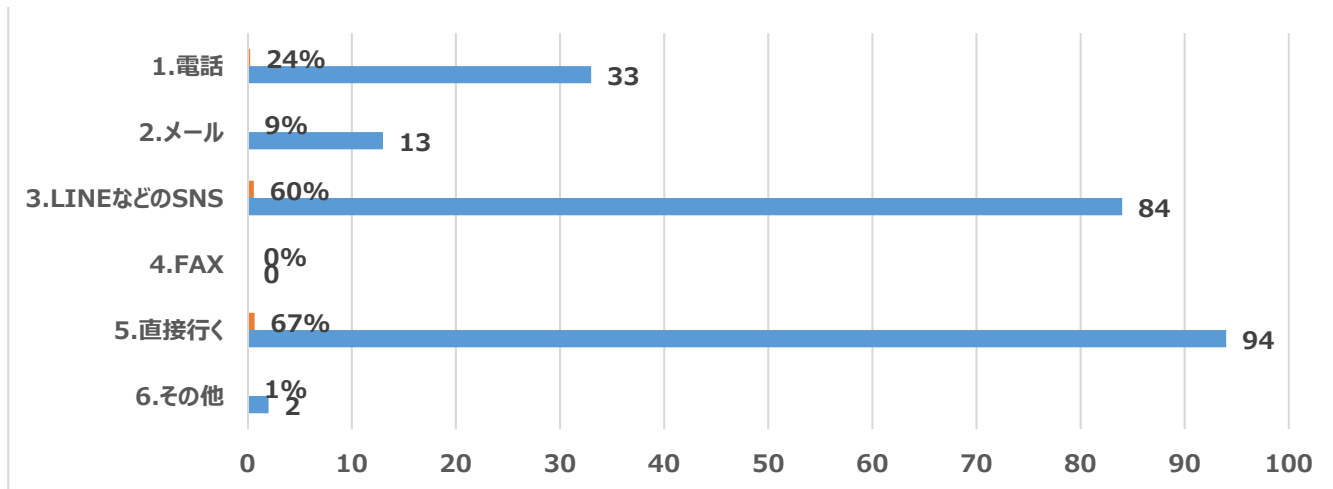
5.あなたが、困ったときや悩んだときに、誰かに相談するとしたら、どの方法が利用しやすいですか。（複数回答）

小学生、中学生、高校生とも、「直接行く」と回答した割合が約6割となっており、中学生、高校生になるに連れて「LINE など SNS」の割合が高くなり、スマートフォンの普及に連れ、利用が増えているようです。

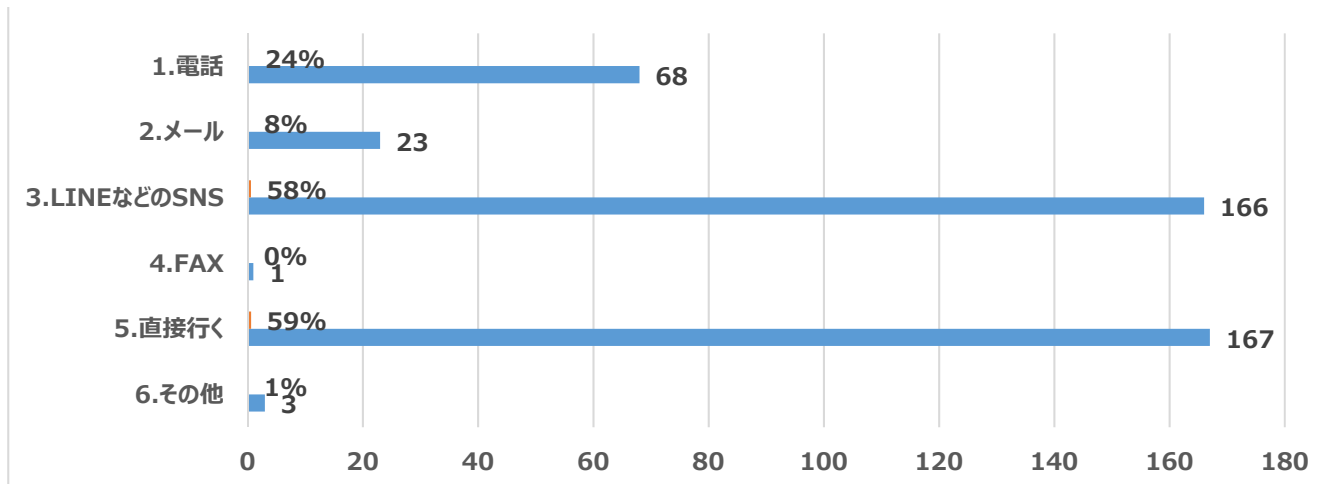
小学生は「直接行く」が 66%と最も多く、次いで「LINE などの SNS」が 37%、「電話」が 30%となっています。



中学生は「直接行く」が 67%と最も多く、次いで「LINE などの SNS」が 60%、「電話」が 24%となっています。



高校生は「直接行く」が 59%と最も多く、次いで「LINE などの SNS」が 58%、「電話」が 24%となっています。

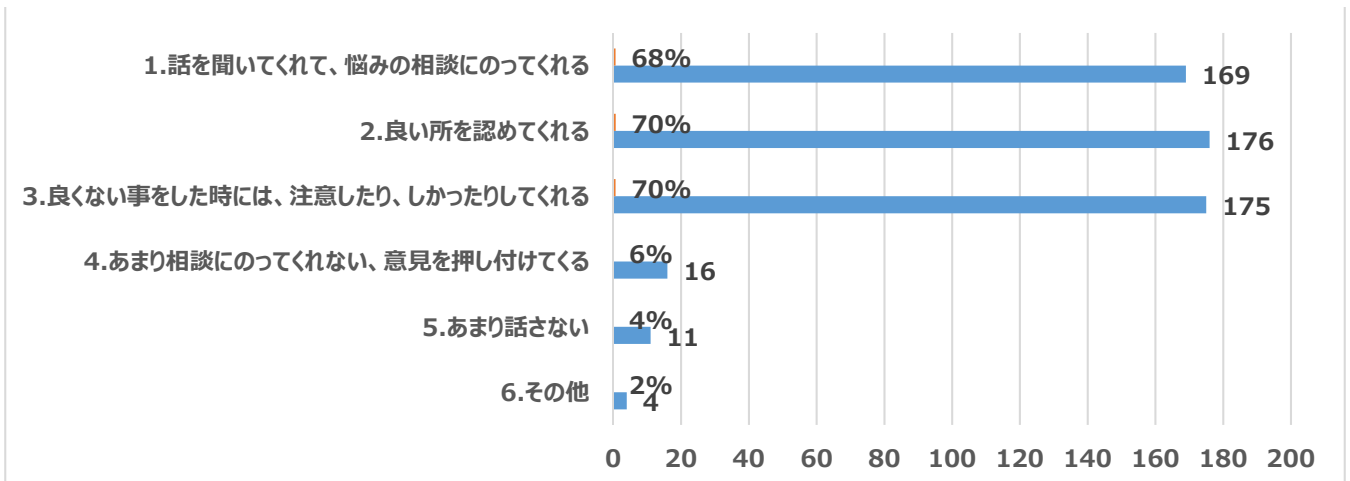


## 2) まわりの大人について

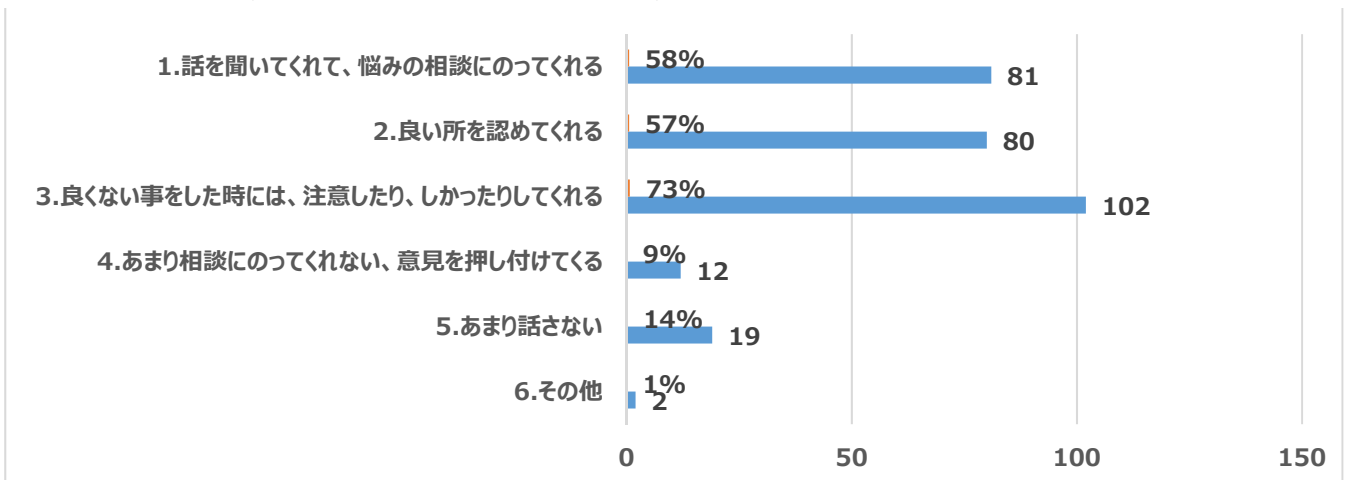
### 6.家族についてどのように感じていますか？（複数回答可）

小学生、中学生とも、家族について、比較的良い印象をもっているようですが、反面、中学生、高校生になると「あまり話さない」の割合が少しですが高くなっています。

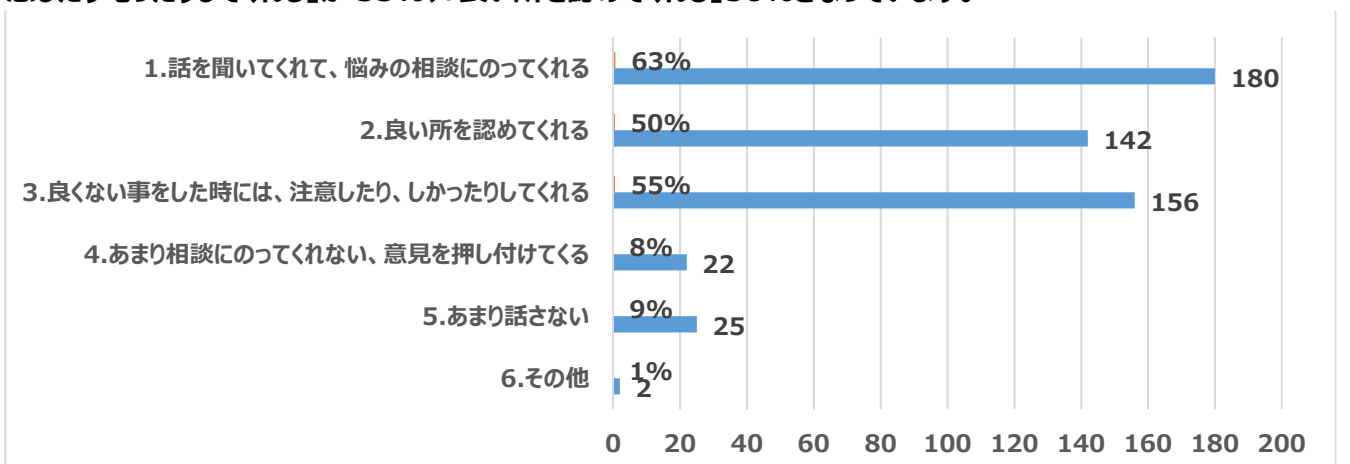
小学生は「良い所を認めてくれる」と「良くない事をした時には、注意したり叱ったりしてくれる」が70%と最も多く、次いで「話を聞いてくれて、悩みの相談にのってくれる」が68%となっています。



中学生は「良くない事をした時には、注意したり叱ったりしてくれる」が73%と最も多く、次いで「話を聞いてくれて、悩みの相談にのってくれる」が58%、「良い所を認めてくれる」57%となっています。



高校生は「話を聞いてくれて、悩みの相談にのってくれる」が63%と最も多く、次いで「良くない事をした時には、注意したり叱ったりしてくれる」が55%、「良い所を認めてくれる」50%となっています。

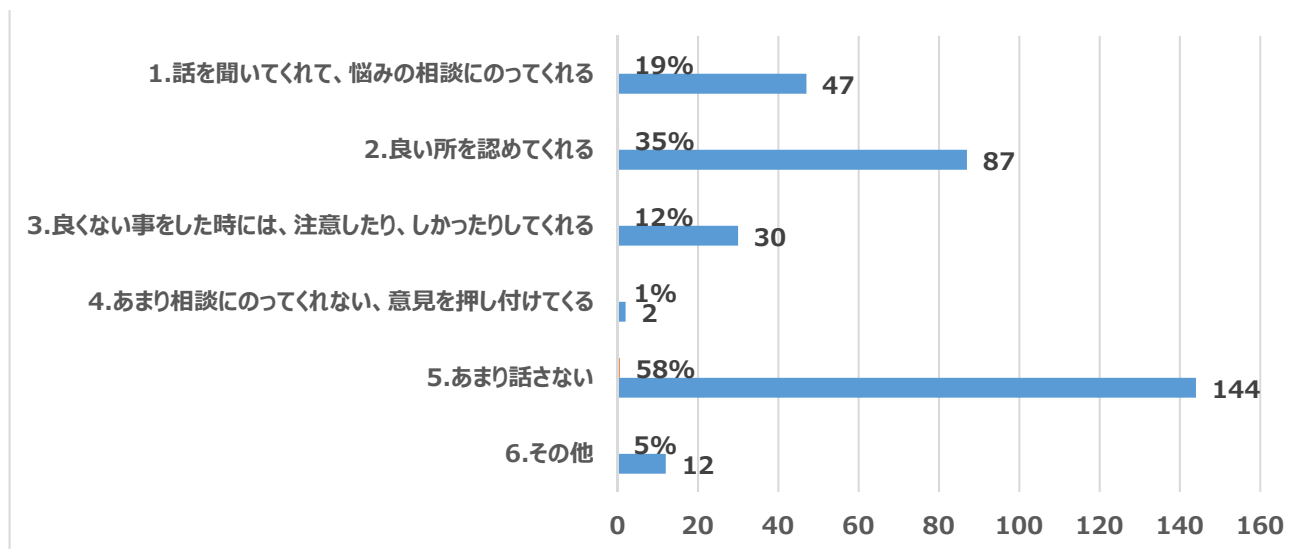




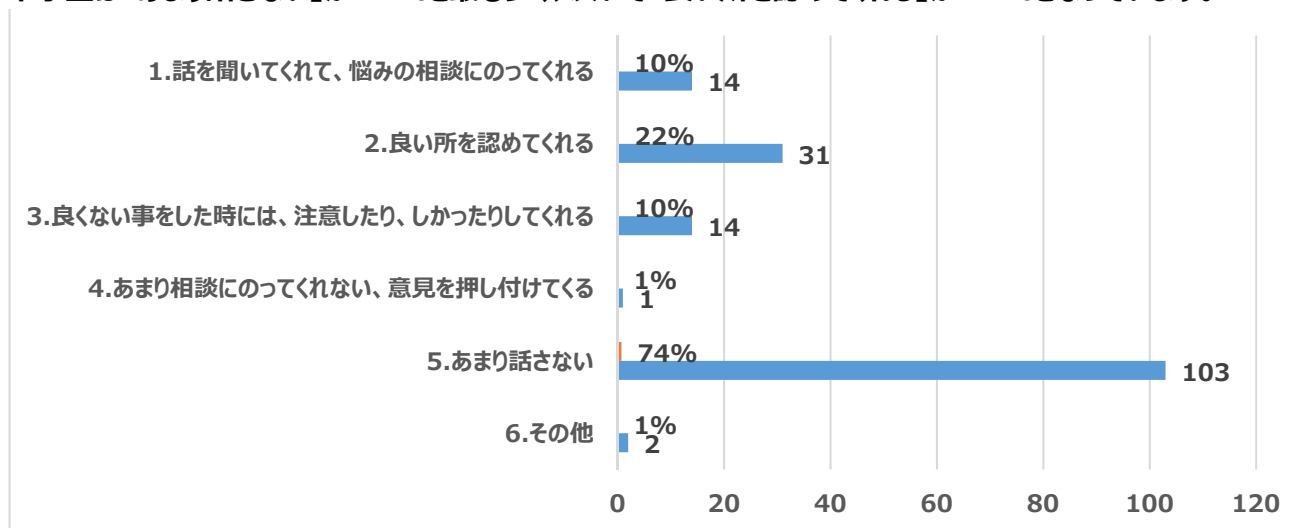
## 7.近所の人についてどのように感じていますか？（複数回答可）

小学生、中学生とも「あまり話さない」と回答している割合が、他の意見よりもかなり高く、中学生、高校生になるとその割合が更に高くなり、近所の人、地域住民との希薄さが読み取れます。

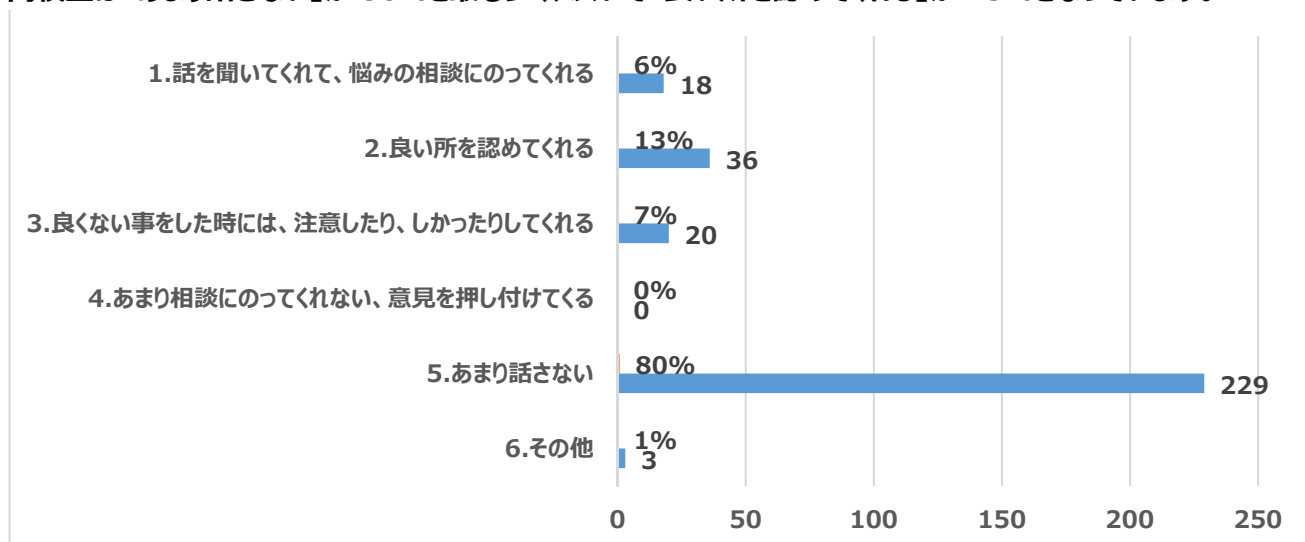
小学生は「あまり話さない」が 58%と最も多く、次いで「良い所を認めてくれる」が 35%となっています。



中学生は「あまり話さない」が 74%と最も多く、次いで「良い所を認めてくれる」が 27%となっています。



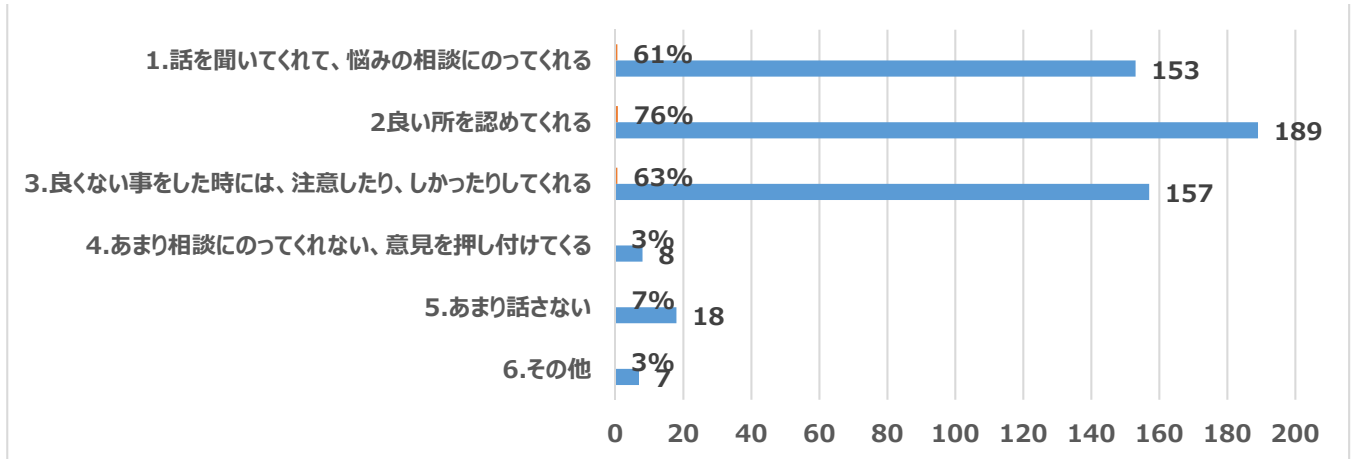
高校生は「あまり話さない」が 80%と最も多く、次いで「良い所を認めてくれる」が 13%となっています。



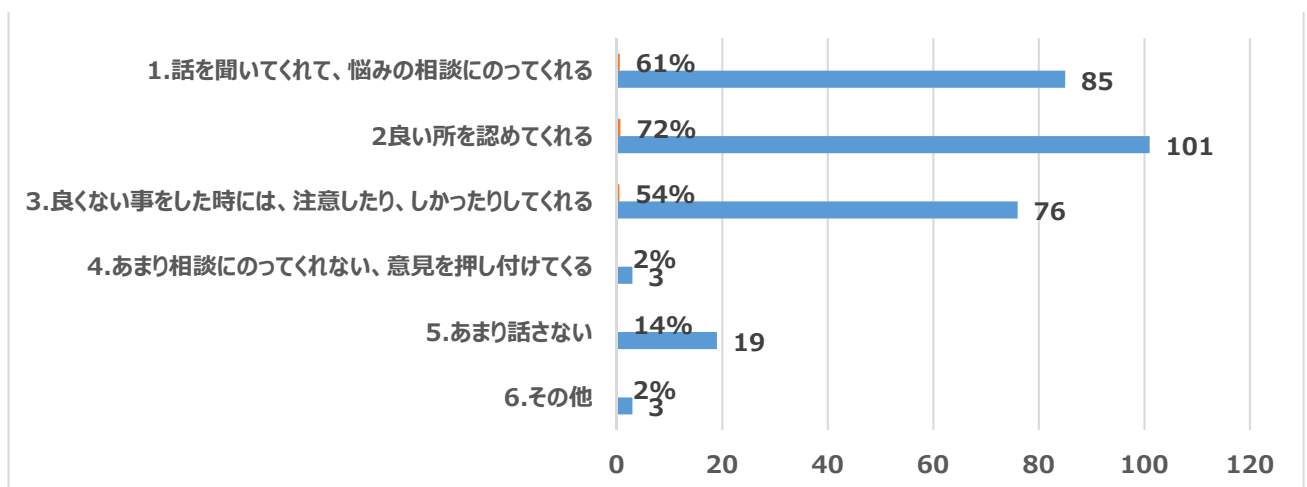
## 8.学校の先生についてどのように感じていますか？（複数回答可）

小学生、中学生、高校生とも、学校について、比較的良い印象をもっているようですが、反面、高校生になると割合が7割から4割程度に減少し、成長とともに「あまり話さない」の割合が7%から14%、30%と高くなっています。

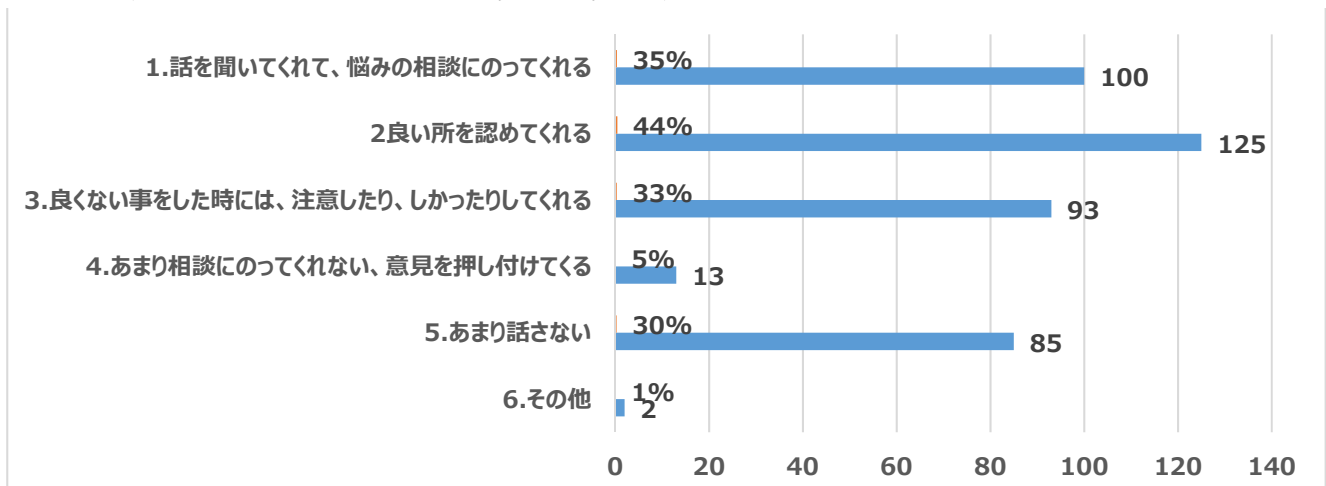
小学生は「良い所を認めてくれる」が76%と最も多く、次いで「良くない事をした時には、注意したり叱ったりしてくる」が63%「話を聞いてくれて、悩みの相談にのってくれる」が61%となっています。



中学生は「良い所を認めてくれる」が72%と最も多く、次いで「話を聞いてくれて、悩みの相談にのってくれる」が61%「良くない事をした時には、注意したり叱ったりしてくる」が54%となっています。



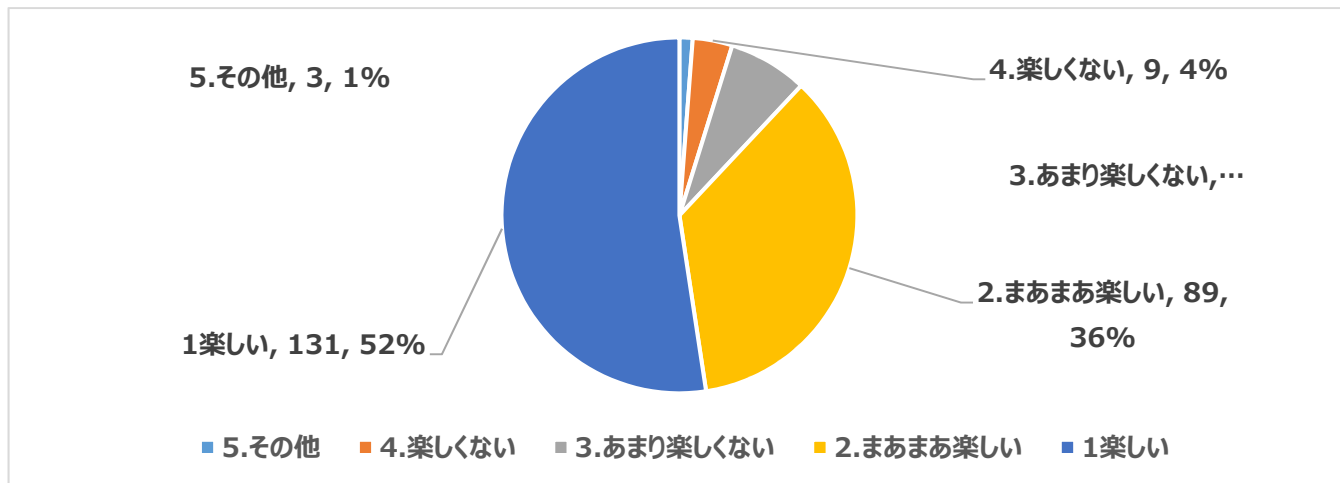
高校生は「良い所を認めてくれる」が44%と最も多く、次いで「話を聞いてくれて、悩みの相談にのってくれる」が35%「良くない事をした時には、注意したり叱ったりしてくる」が33%となっています。



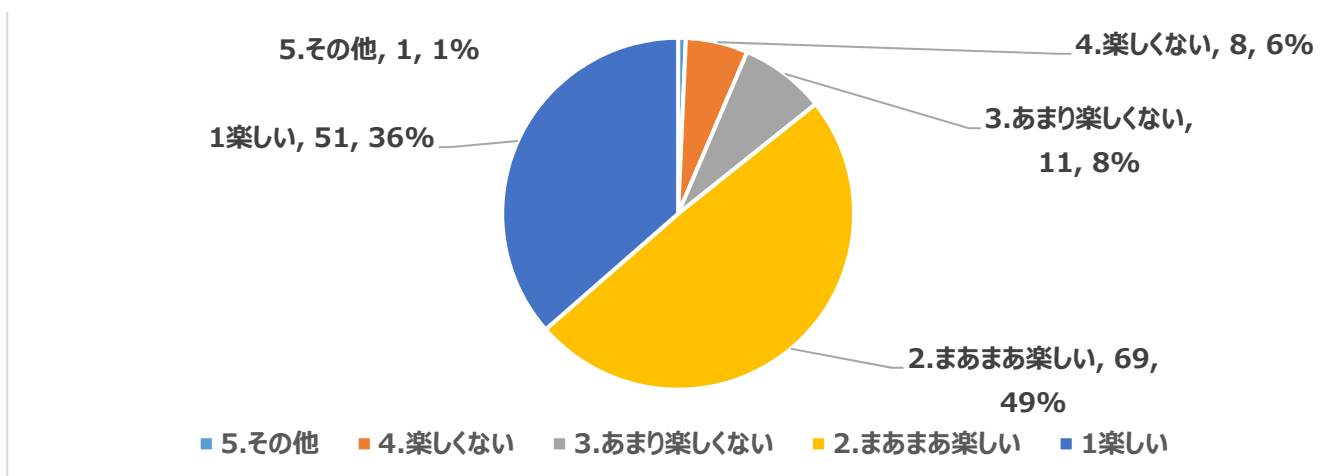
## 9.学校は楽しいですか？

小学生、中学生、高校生とも、学校が「楽しい」と「まあまあ楽しい」と回答している割合が8割以上と高くなっています。

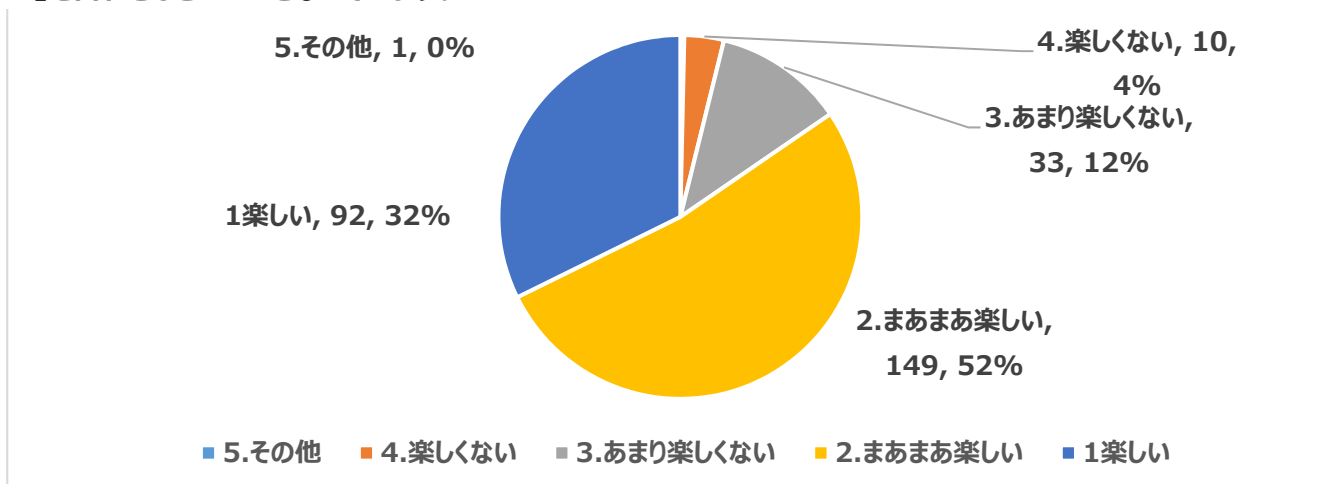
小学生は「楽しい」が52%と最も多く、次いで「まあまあ楽しい」が36%となっています。「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせると88%となっています。



中学生は「楽しい」が36%と最も多く、次いで「まあまあ楽しい」が49%となっています。「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせると85%となっています。



高校生は「まあまあ楽しい」が52%と最も多く、次いで「楽しい」が32%となっています。「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせると84%となっています。

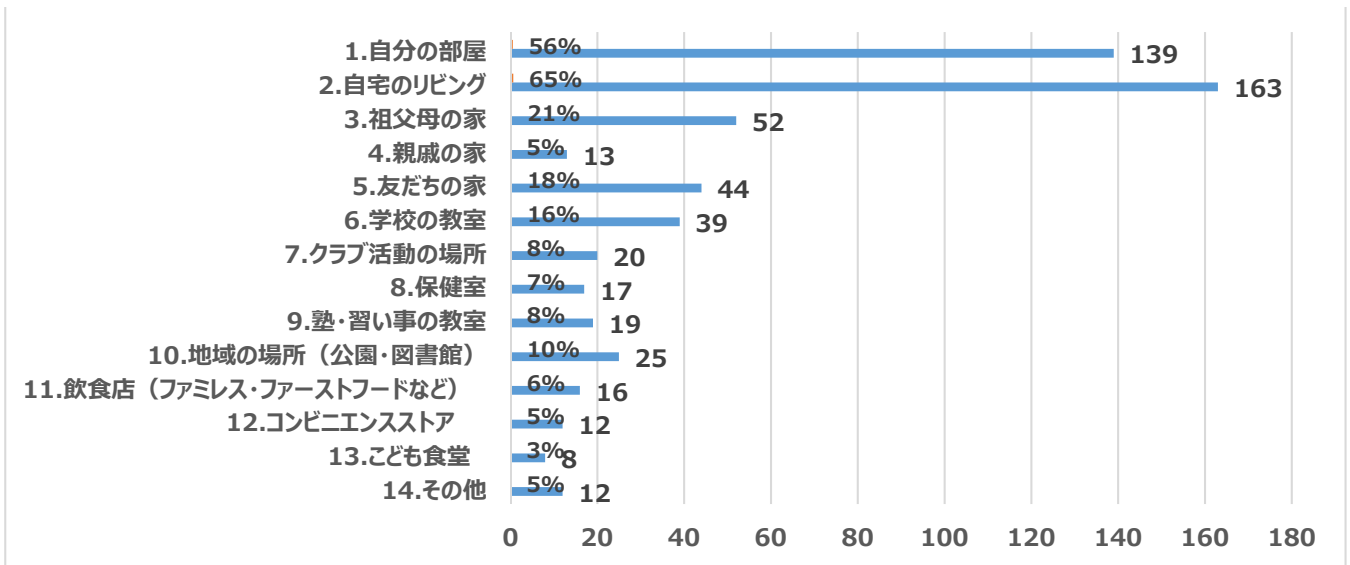


### 3) こどもの居場所について

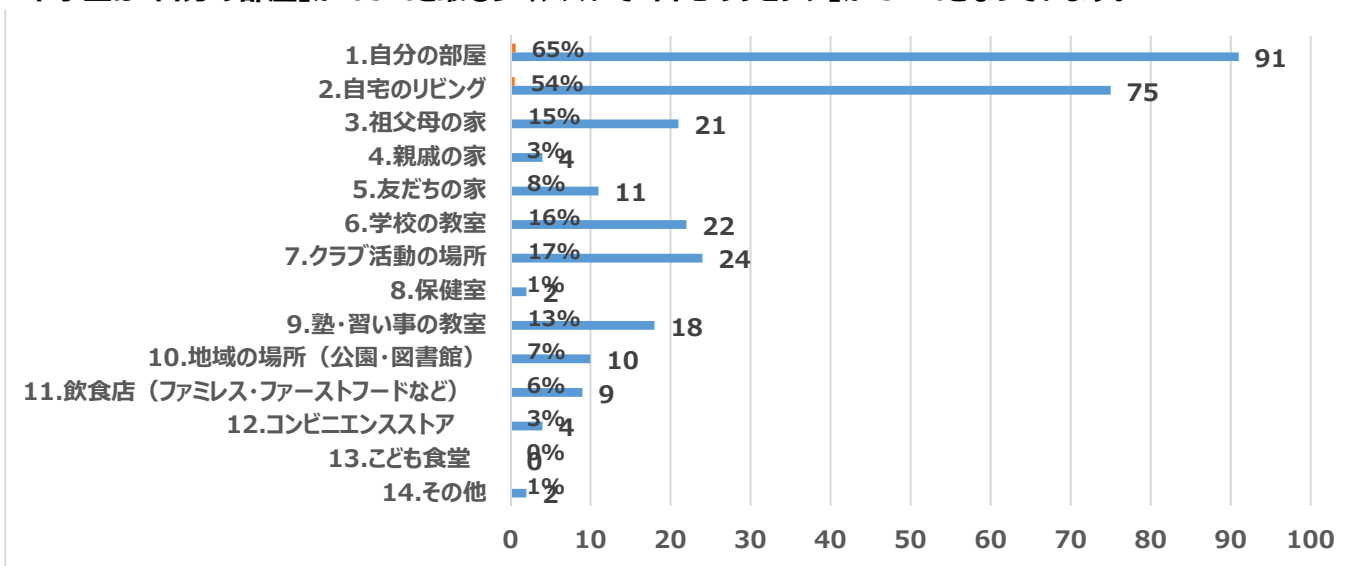
#### 10. 今、一番居心地がいいと思う場所、安心できる場所はどこですか？（複数回答可）

小学生、中学生とも、「自宅のリビング」と「自分の部屋」と回答している割合が高く、中学生、高校生になると「自分の部屋」のほうが安心できると回答しています。

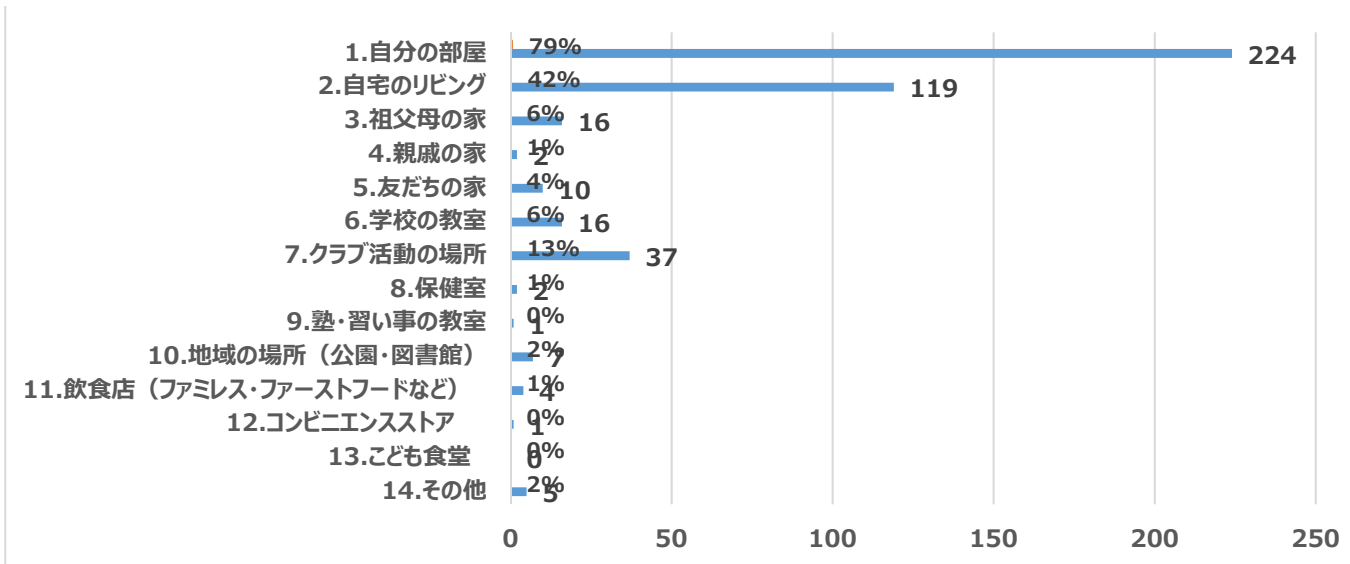
小学生は「自宅のリビング」が 65%と最も多く、次いで「自分の部屋」が 56%となっています。



中学生は「自分の部屋」が 65%と最も多く、次いで「自宅のリビング」が 54%となっています。



高校生は「自分の部屋」が 79%と最も多く、次いで「自宅のリビング」が 43%となっています。



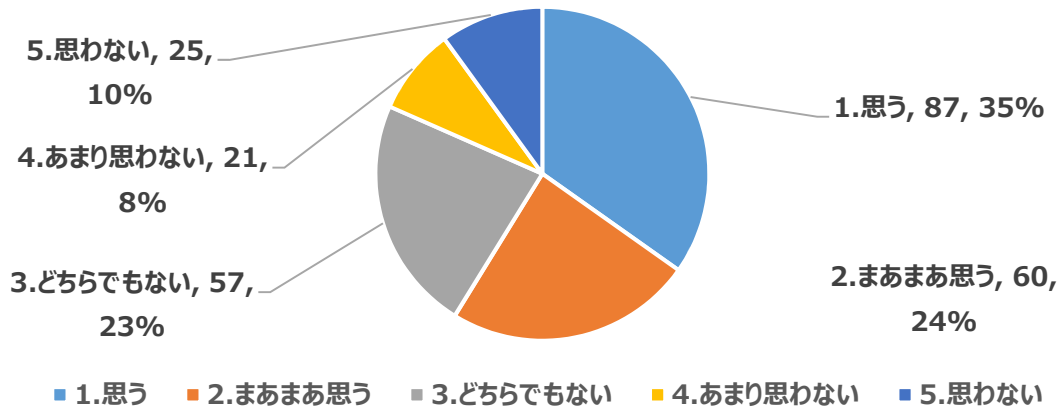
#### 4) 泉佐野市について

##### 11. 大人になっても泉佐野市に住み続けたいと思いますか？なぜそう思いますか？

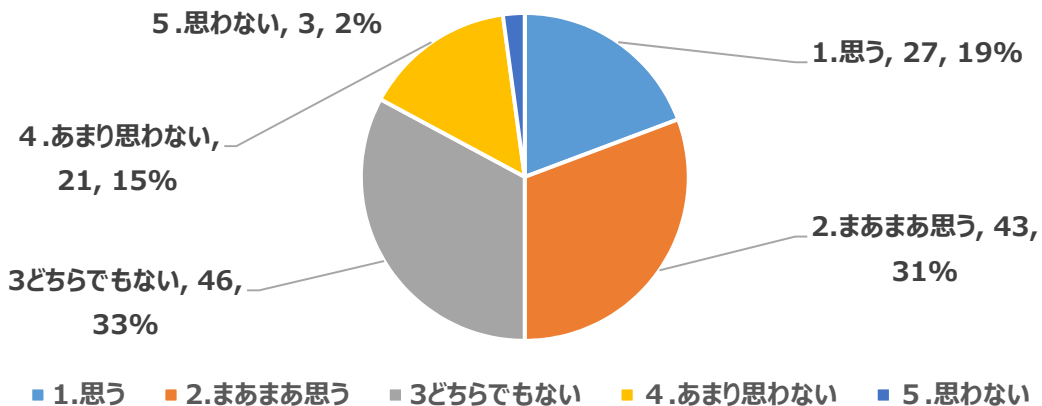
泉佐野市に住み続けたいと「思う」、「まあまあ思う」と回答している割合が、小学生は59%、中学生は50%と年代が上がるにつれて、減少しています。その理由として、「都会に憧れがあり、都会で自分の夢をかなえたい」や「泉佐野にとらわれず、自分の視野を広げたり知識を増やしたりしたい」などの意見がありました。

高校生は、市外から泉佐野市内の高校に通学することも含まれることから、地元ではない子どもが多く、客観的な立場から「思わない」「あまり思わない」の割合が高くなっています。

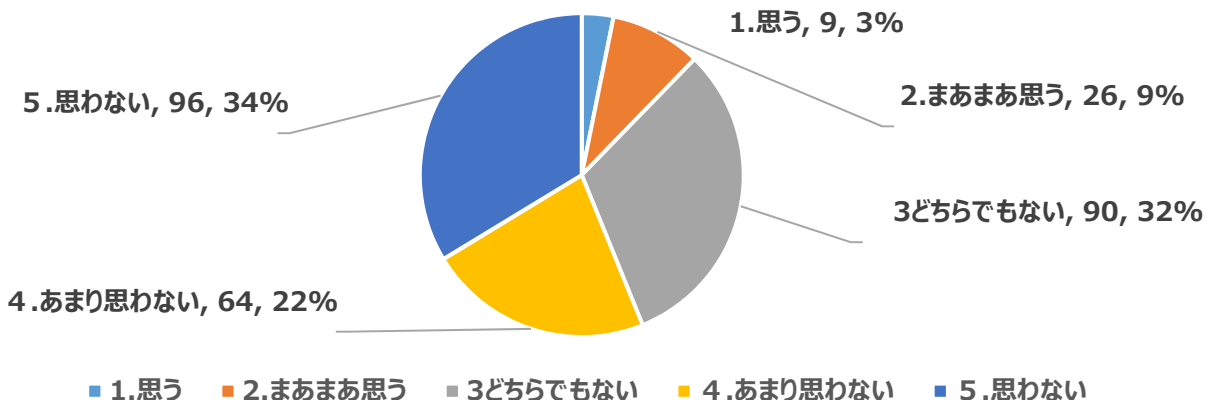
小学生は「思う」が35%と最も多く、次いで「まあまあ思う」が24%、「思う」と「まあまあ思う」を合わせると59%となっています。



中学生は「どちらでもない」が33%と最も多く、次いで「まあまあ思う」が31%、「思う」が19%で、「思う」と「まあまあ思う」を合わせると50%となっています。



高校生は「思わない」が34%と最も多く、次いで「どちらでもない」が32%、「あまり思わない」が22%で、「思わない」と「あまり思わない」を合わせると56%となっています。



## 12. なぜそう思いますか？（代表的なご意見）

### 「思う」「まあまあ思う」の理由

生まれ育った場所だからずっと住みたい。知り合いが多いし信頼できる人がたくさんいるから。
楽しいし居心地がいいし優しい人がたくさんいるから。
自分が育った場所で仕事をしたい。
私は引っ越してここに来たけれど素敵な市だと思ったから。
閑空や交通機関が整っていて、ショッピングモールや新しい建物も出来て買い物も便利だから。
大人になって、もし子供ができたときに泉佐野市なら楽しい場所がたくさんあっていいから。
泉佐野市は小さい都会があり、田舎すぎず、近くに海や山もあり自然豊かで住みやすいから。
だんじり祭りや、いろいろな祭りやイベントがあるから。イヌナキンも大好きだから。
特産品や特産物もあって食べ物もおいしいし、災害や事件が少なく、豊かに暮らせてるから。
泉佐野にもものすごい頑張りが見えるというかなんか親しみがある。
自分が生まれた地域だから大人になっても住みたいなと思いました！
一緒にいてくれる人がいたり、ここ、泉佐野市は一番安心して、暮らせるところだと思うから。
静かで交通の便もよくて住みやすいから。
泉佐野に住んではないけど自然豊かで高校付近や駅近くでは商業施設がまあまああっていいと思った。
最近では外国の方も増えつつあり、これからの街中の発展がさらに見込める。
スーパーやショッピングモールが複数あって生活に困らないから。
物価が都会に比べて高くないから。

### 「あまり思わない」「思わない」の理由

新しい地域で住んでみたいから。
都会に憧れがあり、都会で自分の夢をかなえたいから。
自立して違う市や県に行って経験を重ねたいから。外国で住んでみたいから。
泉佐野にとらわれず、自分の視野を広げたり知識を増やしたりするため。
出身地ではないので、引っ越す前の生まれ育った町に帰りたい気もするから。
泉佐野は結構いいところだけど色んなところに住んでみたいから。
泉佐野市はいい所だけど、大人になっても居たいとは思わない。
仕事場から遠かった時に大変だと思ったから。
泉佐野に住んでいないから。
今住んでいる自分の市が好きだから。
泉佐野では広い世界を見られないので狭い世界で人生を終えたいとは思わないから。
特に住みたくない要素があるわけではないが、大学の進学を考えた場合に、通学に時間がかかるから。

13.泉佐野市を今よりもっと良くするには、どうしたら良いでしょうか？泉佐野市や大人に「やってほしいこと」や「こんなことができたらいいな」と思うことがあれば、自由に書いてください。（代表的なご意見）

【小学6年生の意見】

遊園地をつくる。友達と遊べる大きい公園が欲しい。
犯罪が発生することもあり治安を良くして欲しい。
土曜授業を無くして欲しい。給食を増やして欲しい。ジェンダーをもっと平等にする。
大人だけが政治に参加せず子供も政治や行政に触れられるような市になって欲しい。
全国又は世界中にネットを通じて泉佐野市の魅力を伝えることができたらいいな。
小・中・高等学校の生徒に一人一つの学習サポートロボットを導入してほしいです。
子供のために先生の数を増やしたり、戻ってくるように給料を増やしてほしい。
駅前の商店街をもっと活気づけてほしい。図書館を増やしてほしい。
ポイ捨てやゴミの不法投棄をやめて欲しい。

【中学生の意見】

テーマパークをつくる。友達と遊べる公園を増やして欲しい。
いろんな人と関わる機会やコミュニケーションが取れる機会や活動をしてほしい。
環境を守る活動に積極的に取り組んで欲しい。
飲食店、映画館、大型スーパー、スポッチャなど友達と娯楽ができる場所を増やして欲しい。
バスケットコートを作って欲しい。陸上トラックを作って欲しい。
市民の憩いの場が沢山ある泉佐野市にして欲しいです。
自由参加型マラソンなどを泉佐野市でやってみたいです。
自習できる図書館的な場所を増やしてほしい。
土曜授業をなくして欲しい。
夜、バイクの音がうるさいことがあるので何とかして欲しい。

【高校生の意見】

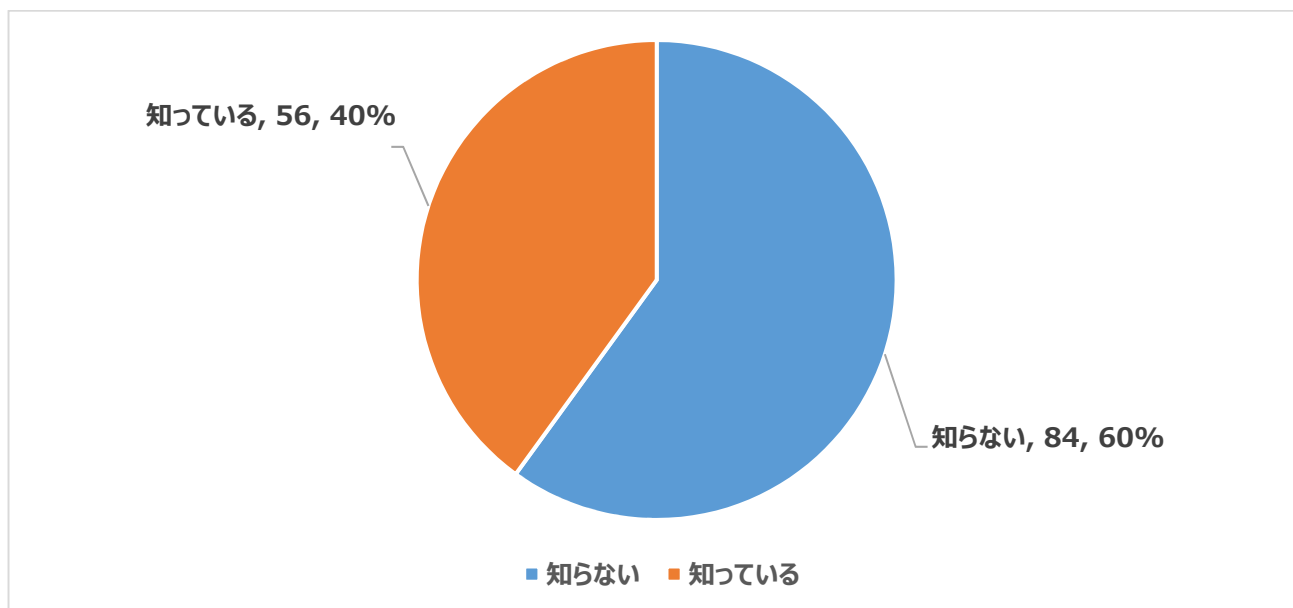
遊べるところを作る。公園をボール遊び可能にする。ショッピングモールや駅の近くにおみせをつくる。
特産品がよくわからない。行きたいと思える場所がないからなにか作る。
前衛的で価値観を広げられるような多様性に溢れた色々な人のよりどころになるような街にして欲しい。
商業施設を増やす。
若者が泉佐野に来てくれるように若者が好きそうな施設を積極的に取り入れ、建設する。
海をきれいにしたり緑を増やしてほしいです。
もっとたくさんの施設が立ち並ぶまちづくりをする。もっと街きれいにしてください。街灯を増やしてください。
インフラを整える。

5) こどもに関する条例について（中学生以上にのみ質問）

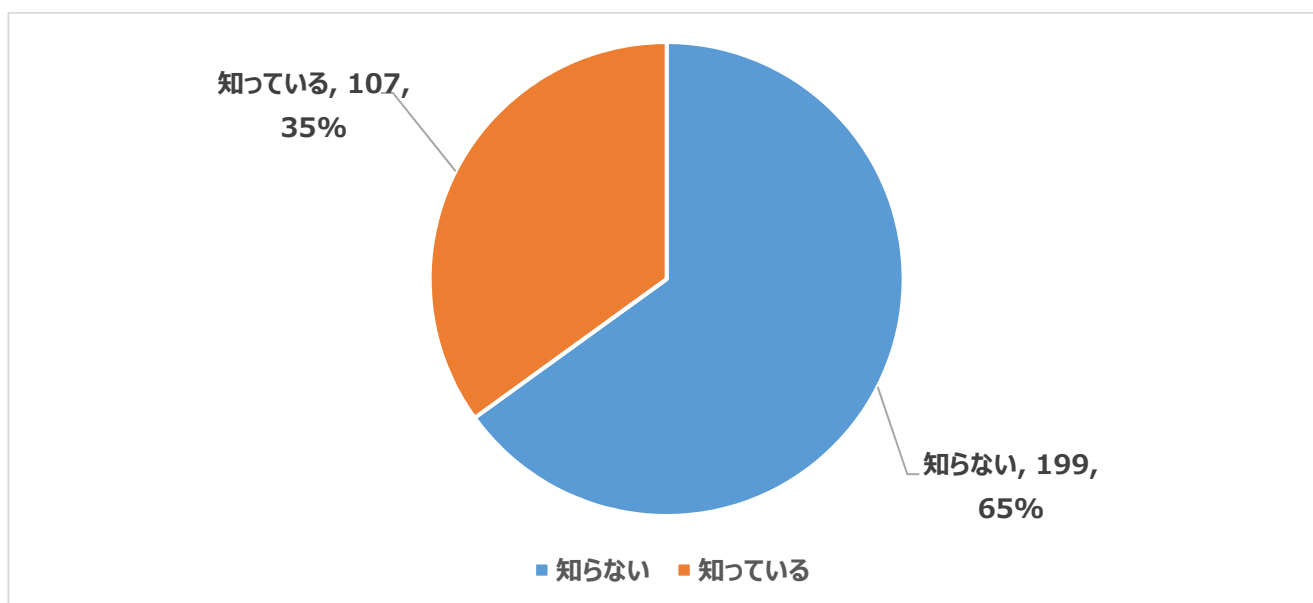
14. 「子どもの権利条約」を知っていますか？ 知っている場合、どこで知りましたか？（複数回答可）

中学生で「子どもの権利条約」を「知っている」と回答している割合は 40%、高校生は 35%となっています。

中学生は「知らない」が 60%と最も多く、「知っている」は 40%となっています。



高校生は「知らない」が 65%と最も多く、「知っている」は 35%となっています。



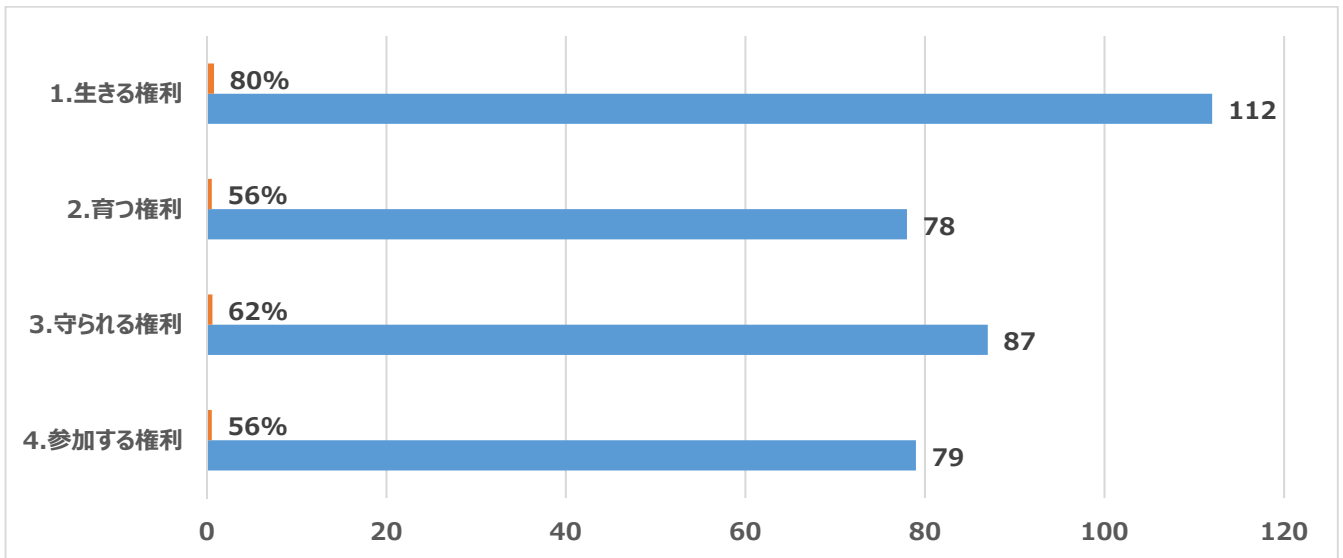


### 15. 日本も条約を批准していますが、日本では以下の4つの権利の中で、どれが守られていると思います

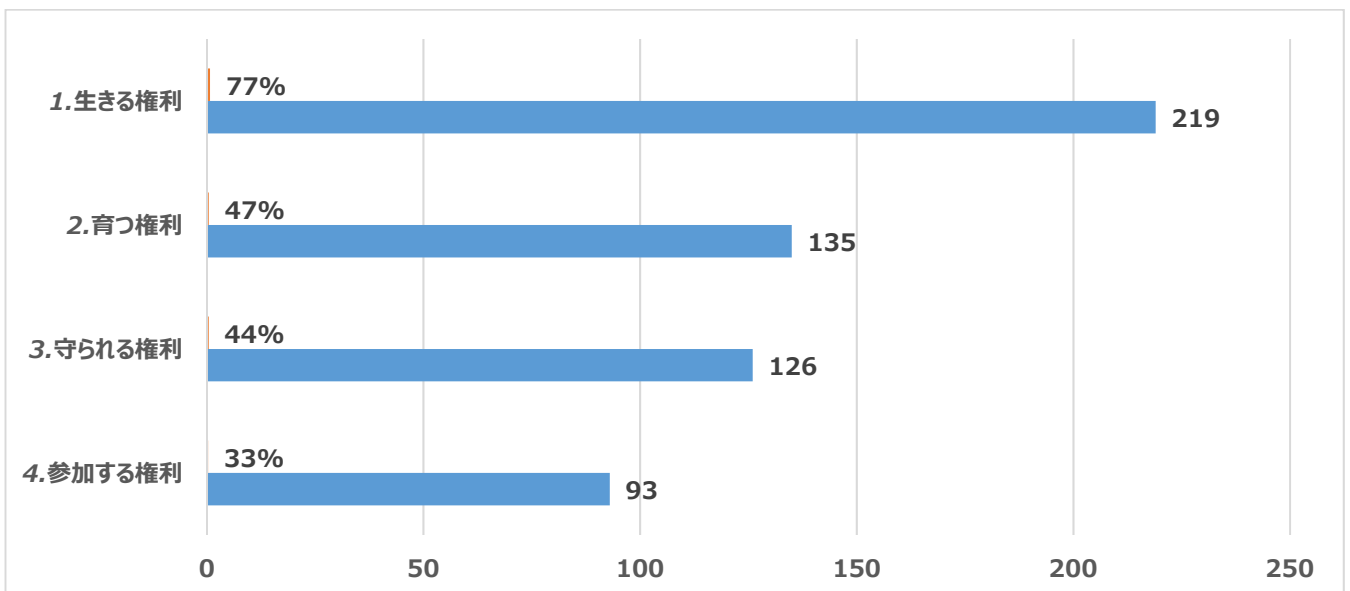
中学生は「生きる権利」が8割と最も多く、自由に意見を表したり、団体を作ったりできる「参加する権利」が5割と低くなっています。高校生も「生きる権利」が約8割と最も多く、自由に意見を表したり、団体を作ったりできる「参加する権利」が3割程度と低くなっています。

か？

中学生は「生きる権利」が80%と最も多く、次いで「育つ権利」が62%、「守られる権利」が56%となっています。



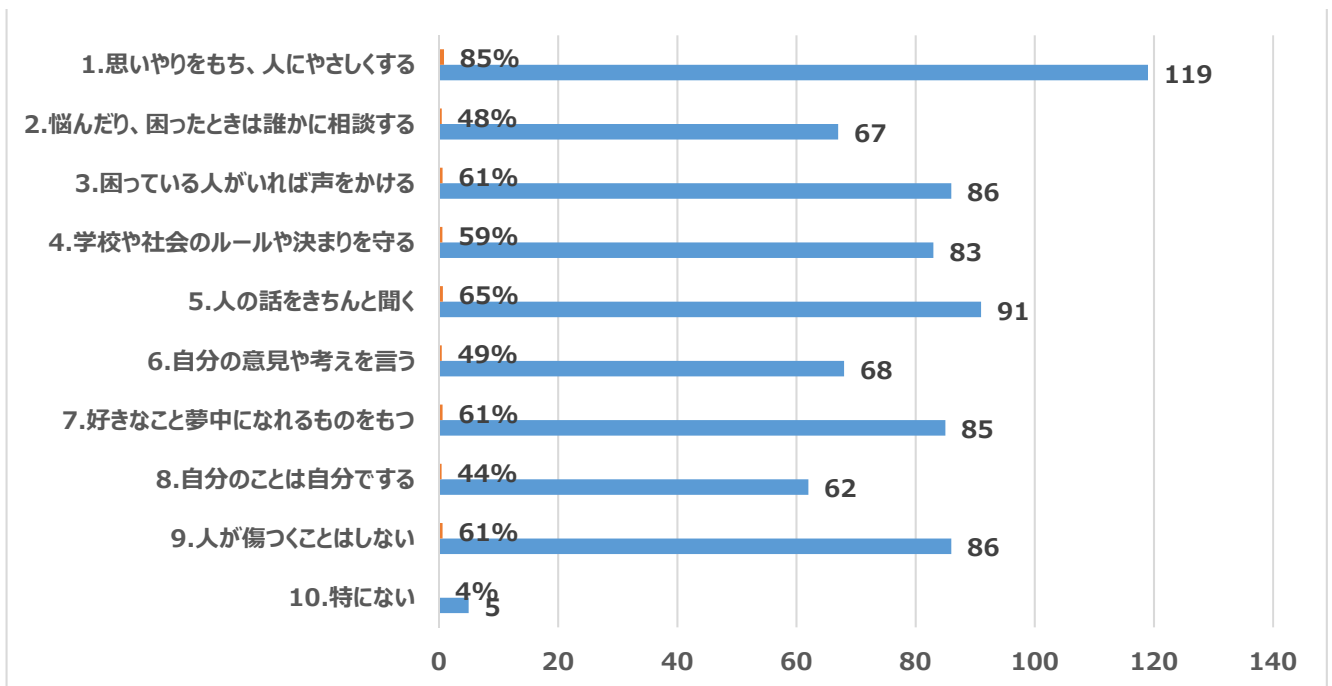
高校生は「生きる権利」が77%と最も多く、次いで「育つ権利」が47%「守られる権利」が44%となっています。



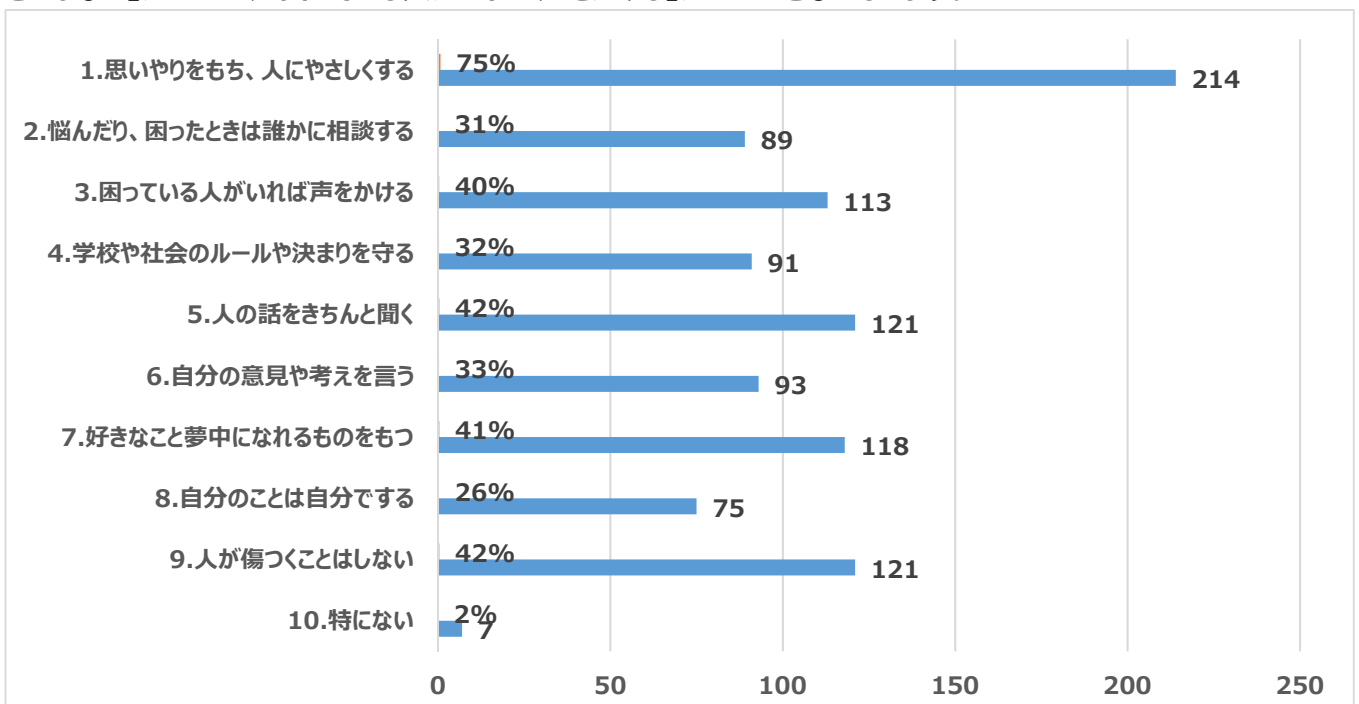
**16.「こどもの権利が最大限尊重され、地域の支えあいのなかで豊かに成長できる、子育てのまち」にするために大切なこと、自分にできることは何ですか？（複数回答可）**

中学生は「思いやりをもち、人にやさしくする」が85%、高校生は75%と最も多く、次いで「人の話をきちんと聞く」、「困っている人がいれば声をかける」、「人が傷つくことはしない」が中学生では6割以上、高校生では4割以上となっています。

中学生は「思いやりをもち、人にやさしくする」が85%と最も多く、次いで「人の話をきちんと聞く」が65%、「困っている人がいれば声をかける」、「好きなこと夢中になれるものをもつ」、「人が傷つくことはしない」が61%となっています。



高校生は「思いやりをもち、人にやさしくする」が75%と最も多く、次いで「人の話をきちんと聞く」、「人が傷つくことはしない」が42%、「困っている人がいれば声をかける」が40%となっています。



## 《調査結果》(2) 施設へのアンケート(※自由記入)

### 1. 貴施設の児童・生徒について、良い点や気になる点など、普段感じていることを教えてください。

話をよく聞く。遊びを見つけて、よく遊ぶ。

子どもらしい一面は残しつつも、様々な経験不足からくる不安、ゲームやインターネットに依存する生活からくる生活リズムの乱れ、感情のコントロールが困難など、現代社会特有の気になる姿が見られている。また、愛着の問題を抱えている児も多い。

コロナの影響でしょうか。以前できていたこと、例えば挨拶であたりが出来なくなっている気がします。

自分の思いをしっかりと述べて何でも楽しそうなおことには意欲的に取り組む子が多い。0歳から5歳での集団生活を送っているため、友達との関わりはよく見られる。反面、忙しい家庭が多く、しっかり関わる時間が少ないため、素直に甘えたり思いは出せない姿が気になる。

異年齢交流を積極的に取り組むことで年上のこどもたちが小さいこどもたちに優しく接することが多くなった。  
発達障がいを持つ子、或いは疑いのある子につく加配職員など公的支援の充実が必要です。

グレーゾーンの児童が多い。

年上の子と年下の子と一緒に遊んだり世話をやいたり憧れて真似たりする姿が日常の中で自然とあること。明るく天真爛漫で元気すぎる。個別の配慮や支援が必要な児童が年々増えていると感じる。

2歳児から少人数保育をしているので、小さいころから先生と子どもの距離が近く、先生と話がしやすい環境であるため子どもたちはしっかりと落ち着いて先生の話が聞ける。また、カリキュラムも充実しているため教育・保育がしっかりと出来ている。  
配慮がいる子どもが増えて来ているため、きめ細かな配慮が必要である。

○明るく社会的で、優しい。○自信がないことには、消極的である。○体力がなく、集中力が切れやすい。

家庭であった楽しかったことや嫌なことを隠さずに話してくれる子が多いので、家庭の気になる様子をキャッチしやすい。気になる点は、在園中は特に気になる様子がなかった子が小学校に行くと、不登校や素行不良になっている様子を見聞きすること。校内暴力を起こしていた親世代の文化が子どもにも引き継がれている気がする。また、親との関係(愛着)で課題のある子どもが気になる。先生に過度に甘えたり、暴力的になつたりして自分を見て欲しいという姿が気になる。家庭で甘えられない子が多いと感じる。

・年々、習い事が増加している。(4.5歳を対象に) ・体力筋力の低下・AD(愛着障害)が増加している。小学校への支援が必要だが、もともと持っているものではなく子育ての愛着形成が出来ていないからなつたという印象。  
・園内、園外共に行事やイベントごとには積極的に参加する傾向。(印象)

子どもらしさがあり、何にでも興味をもつところが良い点だと思います。

しかし、コロナ禍の生活が長く続いたのも原因の一つなのか、子ども達の体力の低下といろいろなことへの経験不足は気になる点です。

保護者から愛情をたっぷり注いでもらって、健やかに成長していると感じられるお子さんがほとんどです。

若干、兄弟や姉妹がいるせいか、目が行き届いていない? けがをする回数が多かったり、保護者の方の表情に笑みがないように思える家庭がある。外国籍の方の、わがママが多い。

一人ひとり個性豊かで、何より笑顔が素敵です。のびのびと過ごしていただけるよう、また将来の自立に向けたサポートを行っていかかわりを持っています。

デイサービスの事業所も増え始めて療育を受けようと思っている保護者様に事業所のHP等以外にも市と連携して発信できる場があればいいと感じています。児童のみの事業所から放デイを探す時など説明会等があれば児童や保護者様にも色々選択肢が増え豊かな生活を送ることができるのではと思います。

子どもさんたちが学校生活を楽しみ、時に悩みを抱えることもありますが、事業所に来てお話をすることで少しでも気持ちを軽減し、頑張つて学校に通っています。我々の事業所では主に中学生の子どもさんが来所しており、それぞれの課題に対して指導員とともに取り組んでいます。気になる点において、中学生の子どもさんたちへの担当者会議等があまりされていないことに疑問があります。特に子どもさんたちの進路を考える際に、最近ではいろんな進路先がありますが、あくまで高等学校への進路先しか学校からは提案されていません。高等専修学校や高等支援学校など、子どもさんたちに合った進路や学習、訓練を考えていかねばならないのに、と考えています。

現在、小学2年から高校3年生までの男女の子供が在籍しているが目立つトラブルも無く協調生がある。一部で特定の子と遊んだりはあるが、年齢、性別、性格が違うので多少仕方ないと感じるが、その時々に応じて職員が子と子をつなぐ架け橋になれるよう適切な支援を提供できる様心がけている。

## 1. 貴施設の児童・生徒について、良い点や気になる点など、普段感じていることを教えてください。

子どもと関わる全ての人が、子どもを中心に様々なことを考えているため、子どもたちが生き生きと、自分の好きなことを、得意なことを生かしながら、日々の生活を送れていることが良い点だと感じる。

ご家庭や学校、各関係機関と連携を取り、同じ方向性で支援の方法を考えていける点が良いところだと感じます。

気になる点はご家庭の協力が難しい場合に、児童や生徒の力が発揮でき辛い状況だと感じます。

少しずつ自分が思っていることを、支援員に伝えられるようになってきている。学校での活動が見えないため、すごく疲れて帰ってきて、寝ている事がある。もう少し本人に寄り添い休憩する時間を学校でも取り入れられないか？と疑問に思う。

素直で優しい

・リハビリを行っているが、子どもたち自身の思いでリハビリに取り組もうとしている様子が関心します。

・重度障害児の保護者の負担

(良い点) 友達と関わり遊びが広がる。保護者同士のつながりや、関わりができる。(気になる点) 保護者の悩みが複雑化している。(精神的に大変な方もいる) 配慮が必要な子どもが増えて来ている。

よい点-優しく、思いやりがあり、明るく、元気に挨拶やお返事してくれます。いろんなことに挑戦したり、最後まで諦めず頑張ってくれることも達です。気になる点-理解しにくい子どもや、発達面でグレーの子ども達の中立ちや、一人ひとりの支援の難しさがあります。

良い点・素直な心を持った児童が多い。・のびのびとしたゆとりのある心を持った児童が多い。・自己の存在を肯定的に捉えている児童が多い。気になる点・規格内に収まってしまう子が多い。・失敗を恐れて、「積極的に」「一人で」事に当たることができない子が多い。・「やりたい」自主的な心がなかなか表出してこない。

体育館に大きなミーティングルームがあるところ

素直でおとなしい児童が多く、学校としては落ち着いている。ただ、ちょっとしたことで保健室に来たり、欠席する児童が多いように思う。欠席については家庭の事情や保護者の考え方もあるので一概には言えないが、もう少しがんばったり我慢することができれば休まずに来ることができるのではないかと感じるケースも有る。保健室に来る児童についても同じことが言える。ただ、しんどいことをちゃんと大人に伝えることも大切なことなので、学校としては、子どもがうたえ、てくることは、丁寧に聞いてあげなければいけないと思う。

良い点は学年関係なく仲がよく、生活習慣の基本も身につけている児童が多い点である。気になることは、大阪府のすくすくウォッチの結果から自己肯定感が低い傾向が見られた点である。

人なつっこい、明朗、メリハリがないときもある、切り替えが苦手

## 2. 子どもの権利が守られることに関して、期待することは何ですか？ また、保育・教育現場において問題になりえることはありますか？

子どもを尊敬する心を、大人が持つことに期待する。

一人一人の子どもの命を守るため、健やかな成長のため、安心して暮らせる地域社会のあり方について、サポート体制がより強化されることを期待します(保護者の支援も含む)。

保育現場においては、いわゆる「不適切保育」のニュースが世間を騒がせる中、個々の発達に応じた援助や、集団への指導を行うことに対して、保護者、世間から、より厳しい目で見られる事が考えられる。行政には、各施設の現状、働く職員の負担にも目を向けてもらい、子どもにとってより良い環境づくりのためにも、必要な体制を整備していただきたい。

たとえば0歳児あっても人権があること(当たり前ではありますが)を考えて排泄の処理や着替えができているのか。

当たり前のように、1人1人の子どもが尊重され、衣食住が守られることによって、子どもの育ちが保障されること。どの地域でも子ども1人1人の育ちが保障される環境をつくためには、充実した施設や体制がなければならないと感じる。

市では未就学児が2人以上いる場合、第2子以降の保育料は無料となっていますが、多子家庭の子で在園児以外のこどもが小中学生の場合は対象とならない。

こどもの貧困は多子家庭が原因の場合が多く、子どもの権利を守るには、まず本市のこの規定を改正すべきである。

今のこどもが一人の人間として尊重され、愛されていると感じて健やかに育つことで虐待等負の連鎖が少しでも減ると良いと思う。集団活動の中で一人一人を尊重しながらでは難しい場面もある多々ある。

## 2. 子どもの権利が守られることに関して、期待することは何ですか？ また、保育・教育現場において問題になりえることはありますか？

SNS、youtyube等の拡大により行事等個人情報の拡散が心配である。(行事のたび注意勧告をしているが)

○環境の整備○職員の意識の持ち方

親、先生など様々な大人からの暴力や虐待等に対して、NOと言える社会になることを期待している。親の価値観、思想等が過度に尊重されて、子どもの命が脅かされたり、みんなと一緒に活動に参加できないことがあるので、子どもの意見もきちんと尊重されて欲しい。

愛着障害に対して、専門の方から厳しく指導する立場の職員が配置できれば。(泉佐野市内で2名程度)それを公民両方が使用できるシステム

発達上の問題やしんどさは、3歳児クラスになって突如現れるのではなく、1歳や2歳からも現れており、行政に対して支援を求めても前向きな回答はありません。本来、もう少し配慮してあげればと思うお子さんに対して時間をかけられないことや配慮のいるお子さんに時間をかけているために本来の保育を受けれていないお子さんがいるのではないかと思います。また、3歳児以降の発達に影響していないか心配です。先進的な市のように制度にとらわれることなく子どもの権利が守られる支援が必要と考えます。

子ども達が安全に遊び、生活できる環境の中で安定した心が持てるような関わりが必要で、その関わりの中で子どもの自主性を尊重し子ども一人一人の自己肯定感を高めていけたらいいな、そこを大切にしていきたいと考えています。その為にはそこに関わる大人の気持ちの余裕も重要になってくると思います。しかし、保育現場での職員の負担は増えるばかりです。子どもに関わる大人の心の余裕が持てるように働きやすい改革をしていって欲しいと思います。

生まれながらに、幸せを守られることが当たり前と思う中で、仕事とお子さんの体調など優先順位に疑問を感じることがあります。確かに仕事をして生計を立てることは大事なことです。が、幼いお子さんは、体調の変化に気を付けて無理をさせないようにしてあげてほしいです。

子どもたち一人ひとりの意見が尊重され、地域社会の一員としての役割を担うことができるようにしていかなければならないと思います。大人も子ども一人一人の人間なので、自分で意見を述べることや伝えることが難しい場合は、日頃その子にかかわっている人が内面推理をしたりしながら思い等を共有していくことが求められると思っています。代弁者的役割を務めることが大切だと考えます。

障がいの有無関係なく尊厳が守られ社会参加ができる。個人情報保護等で情報の開示が難しくなったりしないか？  
本来情報共有し支援に努めたいところが各機関が保守的になりすぎると連携がしづらくなりそう

行政や市の取り組みがより良いものになることを期待します。

どの年齢層においても、いじめ、進学や勉強などを相談できる場所やこども専用のこころの相談できる場所が身近にあり、気軽に立ち寄れる居場所の存在に期待したい。大人が子供の悩み事に干渉しすぎない方がいい。大人には分からない悩みが子供には沢山あるのも事実。

すべての子どもがもれることなく権利が守られて、子どもを取り巻く環境に関係なく、すべての子どもが権利を使うことができるようになることを期待する。保育・教育現場では、家庭の環境等により、子どもの権利の理解に幅があり、権利を守られない環境で育つ子どもも見受けられることが問題になりえると考ええる。

周りの大人が子どもの変化にすぐに対応できるように連携し、子ども自身も発信しやすい環境作りを期待します。連携不足から子どもの権利が侵害されることのないようにしたいと感じます。

どんな障害があっても家でできない経験を、教育現場で行えるようにする。学校で疲れた時に休める時間が取れるようにする。学校ではやる事が沢山あるので、休む時間が取れない。と教職員に言われた。障害のある子どもに対してそれは、虐待のグレーゾーンになるのではないかと感じました。

本人理解

指導者の無理な誘導が、子どもたちの気持ちの負担になっていないか、教育者の“あたりまえ”を個別を無視して一斉に押し付けていないかをいつも考えます。

## 2. 子どもの権利が守られることに関して、期待することは何ですか？ また、保育・教育現場において問題になりえることはありますか？

期待すること：①合理的配慮 ②子どもたちの学習権の保障（保護者に係る教育義務ではなく）

問題点：不登校問題における「不登校」の定義（言いかえると、どこまでが登校か）

子どもがもっと自己肯定感もてる環境を期待している。子どもも、さまざまな環境で育ち問題をかかえている中で、保育士、教員の子どもの理解がかなり求められていると感じる。しかし、力がそこまで備わっているか、、、問題だと感じる。

- ・子どもの気付きや心が大切にされ、その中で子どもが自信を持って自己選択したことを全力で取り組むこと。  
また、その取り組みを周りがあたたかく見守っていること。
- ・権利と義務についてわかりやすく学習し、権利ばかり主張する人間でなく、義務も一緒に負った生き方を旨とするように  
全教育課程の中で育んでほしいと思います。

我々が子どもの時に比べ、より施設や教育に力を入れている感じがする。

外からは見えにくい、家庭内の問題が少しでも解決することに期待。不登校にも色々あり、保護者の考えで子どもが学校に来ない場合もある。もちろん、無理やり登校させることはだめであるが、保護者と学校が子どものより良い未来に向けて、前向きに協力し合えるようになりたい。

- ・家庭での生活において、子どもの居場所をしっかりと確保していくこと。
- ・学校、家庭、地域の連携を強化し、必要なケースに応じて関係機関とのスムーズな連携はもちろん、迅速な対応がなされること。

## 3. 児童虐待の早期発見・未然防止を図るために、どのような取組みをなさっていますか？ また、どのような取組みが必要だと思いますか？

子どもの何気ない言葉や、保護者の言葉遣い、子どもに対する態度の変化に気を付ける。

日々の視診や、いつもと違う様子はないか、というポイントで園児や保護者とかがわっている。  
こどものつづやきから家庭の様子を知る事もあるので、常にこどもの目線で対話できるように。  
保護者が孤独にならないようなサポート、地域の気付きが大切だと思います。

いつもは機嫌よく登園するこどもがいつもと違う場合や送迎時の保護者の表情や態度がいつもと違う場合は職員間で情報を共有し気をつけている。

毎日、子どもたちの体調管理や視診をしながら、変化がないか確認している。また保護者とも、子育ての話や家庭、保護者の悩み等聞きながら、関わっている。保健師さんや他の施設等というんな視点で連携していく。

衣服の着脱時における身体の異変を注視している。登校園時での親との会話交換に努めている。

ゆとりを持った保育ができれば、不適切な対応は無くなるのではないかと考え、出来るだけ余裕を持った配置になるようにしているが、保育士不足の為雇用で苦慮している。保育園やこども園を避難する報道ばかりなので、保育を楽しんで出来るような支援や取り組みは必要だと思います。

登園時の視診、登降園時の保護者対応時、日常会話の中で感じた違和感等の報告や相談、こどもの衛生面や持ち物の清潔さ、洋服のサイズや季節外の服装、こどもの会話内での家庭の父母の関わり、給食時の食に対する取り組み等普段から視診やこどもと保護者との関わりの中で園長に報告し検討、場合によっては早め早めに行政等関連機関と連携し対応を考察する。要対協のチェックシート等も参考に利用する。

要保護児童の観察（保護者との情報交換）、市・子育て支援課との連携を密にする。

- 日ごろから子どもたちの様子をよく把握し、変化があれば、報告・連絡・相談を行っている。
- 保護者の声に耳を傾け、気持ちに寄り添うことで、保護者の悩みを聞き出すことができる雰囲気作りを心掛けている。

朝の視診や子どもの会話で気になることがないか注意している。気になることがあれば、些細なことでも通報するようにしている。また、親には日頃から育児相談に乗ったりするようにしている。

親の中には子どもに対して叩いても良い、怒鳴っても良いと思っている人が多いので、親が児童虐待について学ぶ機会が欲しい。

保護者と担任との関係性。(コミュニケーションからどれだけ心を開いてくれるか)

### 3. 児童虐待の早期発見・未然防止を図るために、どのような取組みをなさっていますか？また、どのような取組みが必要だと思いますか？

入園説明会の際には、虐待を未然に防止するために、言葉一つとっても虐待に当たるケースがあることや場合によっては、行政に通報する場合もあることを説明しています。また、子育てをしながら働くことの大変さを園としては、理解しているので、お仕事がお休みのときでもリフレッシュの時間を持つためにお子さんを預けていただいたのも大丈夫ですよと説明しています。

行政は、新聞等で報道があったときに、メールで注意喚起等のメールが流れる程度です。制度の中で受動的に行動しているようにしか見受けられません。本当に、未然防止等を考えているのであれば、働きながら子育ての大変さを理解しているのであれば、入所申し込みの書類の中に、早期発見・未然防止のチラシ等を独自に配布するなどの創意工夫等があればと思います。

日ごろから、子どもの姿をしっかりともておく事で小さなサインも見逃さないようにしている事が早期発見にもつながっていると思う。

又、子どもの送迎の際に毎日保護者と顔を合わせて話しが出来るのも保育園の強みだと思います。

生活課題早期発見のチェックシートなどを作成して気になる家庭の保護者と子どもを見守る、それを職員で共有していくなどもやっていく必要があるかなと思う。

お子さんの登園時の身体の状態や、保護者の方のお話を慎重に聞き取りしています。怪我の多いお子さんは、気になるときは、保護者の方に状況を詳しく聞き取りしたりアドバイスしています。虐待を確信したことはありませんが、疑いがある場合は、市役所子育て支援課などに相談するように決めています。

虐待防止マニュアルを置いています。また、虐待防止チェックリストを用いて定期的に職員に日頃の業務を振り返るようにしています。

虐待を防止するために、風通しの良い雰囲気を作ること、一人で業務を抱え込まないこと、虐待に繋がらう芽の段階で気づいてそれを摘み取ることが必要だと思います。

事業所としては虐待防止研修等で定期的に周知をしスタッフ間のコミュニケーションを取りながら支援に努めています児童の変化（体調や気持ち）に気づけるようにしながら児童が置かれている環境や背景にも目配り気配りをしていき情報の共有に努めています

年に数回、研修を行っています。また、子どもさんたちの情報を積極的に共有し、いつもの違う様子があつた場合に関係各所に相談をしています。

虐待を発見しやすい立場にあることを認識し、子どもの状態の変化や保護者の態度等の観察や情報収集により虐待の早期発見、未然防止に努めている。保護者による虐待については保護者に対する相談支援やカウンセリング等により未然防止に努める事が大切。

日々の家庭との連携や、育児不安などに対する思いを丁寧に聞きとり、一緒になって子育てについて考えるようにしている。その中で、子どもの成長をともに喜び、子育てに対するポジティブな思いをもてるようにしている。また、「子育て教室」として、様々な職種の方から保護者向けへの勉強会を定期的に実施することや、子どものサポートブックの作成を一緒にとりくみ子どもにしっかり向き合う機会を作っている。

児童や生徒とご家庭の様子を複数のスタッフで共有し、気になる様子がある場合にはご家庭や相談支援専門員に相談、報告を行なっています。スタッフや保護者への研修や、連携が取りやすい関係作りが必要だと感じます。

担当職員だけでなく、施設内のさまざまな職員が他クラスを見る事で、おかしな所があれば、質問しあっています。

なぜ、こうしているのですか？など。見学の方がおられれば、オープンにどんな支援をしているのか見てわかるようにしています。

子どもの話をよく聞く。様子をみる。

子どもたちの言動、行動を観察し、職員間で協議し、必要時には通報しています。また、お子様へのかかわり方や特性理解を保護者様や周囲の関わる方々に共有しています。

取組み：スタッフ複数人が同空間に居よう配慮

①子どもの様子や、保護者の様子を見てどういう状況か判断している。たくさんの親子と関わる中では、見てピンとくることもある。

支援センターでは、何度も来てくれる中で保護者との関係を作りお家での様子も聞かすが、まず、虐待ケースの方の利用は、ほとんどない。（利用するに至らない。）

②保護者からの通報もある。そんな時は、聞き取りながら、公的機関に知らせて良いか確認しながら連絡を入れている。実際に見守っているとと言われても、訪問の頻度は、どれくらいなのか、虐待の恐れがある家庭は、特に信頼関係作りが大事なので、それができているのかと言うのは気になるところ。訪問の際専門の方だけでなく、経験豊富な保育士も同行し、保護者や子どもの様子を見て、関係作りのサポートができることよりスムーズに把握できるのではないかと感じる。

### 3. 児童虐待の早期発見・未然防止を図るために、どのような取組みをなさっていますか？また、どのような取組みが必要だと思いますか？

お着替えやオムツ交換時に、気になる時は、園長や職員に、周知し、写真を撮って残しています。保護者にも聞いてみるようにしています。必要に応じて、市役所に、届けるようにしています。保護者との信頼関係を日頃よりしっかりとることが大事だと思います。些細なことも市役所と連携をとり、共用していく。

- ・細やかな家庭連絡で保護者と繋がっている状態を作っている。
- ・と、同時に、子どもたちとも繋がっている状態を作っている。
- ・継続可能な児童への定期的なアンケートの実施
- ・何でも言い合える環境の整備
- ・児童虐待についての教職員研修によりアンテナを高くし、より専門的な知識をもつ関係機関の存在を理解しておくこと。

担任が子どもの状況を見逃さないように状況・情報交換の徹底をおこなう。  
報告、連絡、相談、確認の徹底。

大切なのは教師と児童の信頼関係。困ったことは教師に相談できる関係を築くことで、早期発見ができる。また、教師間で情報共有をし、すべての教師で子どもを見守っていくこと。そして、関係諸機関と連携を密にし、協力し合えるようにしなければならない。

日頃の児童の様子をきめ細かに観察し、異変に気づいた場合の校内連絡体制を確立している。また、地域との連携を強めており毎日の見守りをしている方々から、児童の様子で気になることについてはすぐに情報をいただくようにしている。

- ・子どもたちの細かな変化・SOSを見逃さない教職員の目の育成に取り組んでいる。気になったときの複数教員での家庭訪問。
- ・取組み→上記の徹底・学校全体での共有・関係機関との連携

### 4. いじめの早期発見・未然防止を図るために、どのような取組みをなさっていますか？また、どのような取組みが必要だと思いますか？

大阪府人権教育研究協議会の「いまだんなきもち？」のポスターを使って、子どもが気持ちを伝え、その理由を言う取組みを時々している。円になって座り、その気持ちを聞くという体験もしている。

ひとりひとり、得意なこと、苦手なことが違うことを伝えながら、お互いを知り、認め合う関係性を意識し、仲間づくりを大切にしています。

保護者より「これはいじめではないのか。」との声をくることがある。実際にその背景を子どもから聞き取り、また保護者に返していくようにしている。

就学前の子どもさんなので、まだまだ自分の思いを相手に出すことが多いので、大人が、しっかりと起こった状況や背景などを分析して、関わり方を伝えていくようにしている。保護者を含め、地域を取り巻く大人につたえ理解してもらうことが大切だと感じる。

- ・職員間の情報共有と事例研修
- ・教室隔壁にモザイクデザインの空間を作り、互いの教室の行動が視認できるようにした。

毎朝全員で仲間外れにしたりいじめたりしない・こまっている人を助けられる優しい心をと神に祈る。職員の特定の子どもへの対応から、特別ということクラスに子どもに感じさせないよう声かけや配慮の仕方を工夫し、好ましくない行動に対してはクラスの子どもたちが見ている前で執拗な叱責をしない。

担任の先生による日々の子どもの様子の観察、日ごろからの保護者との連携が必要である。

- トラブルが起きたときはすぐに対応し、お互いの気持ちをしっかり聞くようにしている。
- 保護者・職員間の連携を密にし、情報を共有することが大切であると思う。

相手が嫌だと言うことはしない、嫌なことがあった時はすぐに先生に言うように子どもに伝えている。  
周りの見ている子どももいじめを止めたり、通告できる仕組みや教育が必要。いじめ加害者への医療機関・カウンセリングの受診、いじめが起こってしまった背景を検証する仕組みが必要。

- ・子ども園での発達年齢では「いじめ」という言葉は当てはまらない年齢ではあるが、トラブルは丁寧に対応し、保護者に対して必ず説明をする。将来、友達から「●●ちゃんと遊ぶの嫌」と言われてしまうので・・・と場合によっては保護者へ説明する。
- ・いじめからくる部分は、全てで述べているように愛着障害からくるものが大きいと考えます。また、エネルギーを出す場所として、運動会や習い事、クラブの充実によって、しっかりとエネルギーを使える場所の確保とともに、導いていくアドバイザーが必要と考えます。



#### 4. いじめの早期発見・未然防止を図るために、どのような取組みをなさっていますか？ また、どのような取組みが必要だと思いますか？

園独自で全クラスの担任を複数にすることで、早期発見等に努めています。

一人一人の子どもの大切さ、個性の大切さは常に子ども達に伝えていきます。幼い時からいじめを受けたり、ネグレクトを受けてさみしいと思いながら大人になり、親になった時にそこから虐待にもつながりかねないので、子どもが孤立しないように見守っていく事は必要だと感じます

園児の年齢が低年齢のため、いじめを疑うことはこれまでありませんが、例えばおもちゃの取り合いなどある場合は、順番性を促し、貸してあげる。貸してもらおうというルールを指導し、協調性を導いています。

児童虐待防止・予防にもつながることだと思いますが、日頃より子どもたち一人ひとりとコミュニケーションを取り信頼関係を築き上げることで、些細なことでも変化に気づいてあげることが必要だと思います。見て見ぬふりをしないことが大切だと思います。

事業所ではSSTで場面や人に対する適切な行動言葉かけができるように療育しています

困った時に発信できる環境づくりを心掛けています

園や学校での様子等も保護者様、先生に聞き連携しています

いじめをする子供、いじめを見て見ぬふりをする子供が生じる背景には子供を取り巻く学校、家庭、社会環境等が複雑に絡み合った問題があり、その根底には他人に対する思いやりといった人権尊重意識の希薄さが、あると思うのでお互いの異なる点を個性として尊重するなどの人権意識を養っていく事が重要。

日々、子どもとのコミュニケーションをとり、子どもたちが相談できる環境を整えていくことが必要であると思う。また、子どもと関わる大人が、子どもたちの一人ひとりのことをしっかり理解して、画一的にみるのではなく、それぞれの個性に合わせた対応を心がけていくことも大切だと思う。

児童、生徒の学校やご家庭での話を親身になって聞き、下校時に友達とのやりとりの様子を見るなどの取組みを行なっています。また、怪我や痣などがないか、注意してスタッフ間で情報共有をしています。今後は未然にいじめを防げるように、相手の気持ちや立場を考えて行動することができるような教育が必要だと感じます。また、相談することができる窓口が身近にある環境作りが必要だと感じます。

障害者施設なので、職員が利用者さん同士の間に入り支援しています。1対1と言うよりは、職員も2人入れるなど、「言った」「言っていない」にならないように気をつけています。

仲間作り、話しが出来る所、人をつくる

集団で活動してないため、該当しない。・お互いの理解とおもいやりが必要・多様性を知るといじめはなくなるのでは

取組み：①学校等での出来事やその時の思いを作文にする ②スタッフとの人間関係の構築

必要な取組み：日々の観察、何かありそうな時に声をかけるのではなく、日々（毎回）行うこと「スタッフが声をかけ、子ども本人が自分の気持ちを伝える」をルーティンとしておくこと

そばにいる大人次第だと思う。ニュースを見てもいつも後手で、誰も責任を負いたくないと感じる。そもそも、いじている側、いじめられる側の子どもにしっかり向き合って理解すれば未然防止につながると思う。1人の大人だけで対応するのではなく複数人で対応や、対策を考える仕組みが良いと思う。

日頃より友達関係や会話にのなかで関わりを把握しておく。友達同士話し合える環境作りを行っている問題が起きた時、当事者だけでなく、みんなのこととして、解決していく。保育士の中立の中で自分の意見をしっかり言える、環境と一人ひとりの意見をしっかり聞いてあげることが必要だと思います。

・研修などを通した、確かな人権感覚を持った教職員集団づくり。・いじめについて理解が深まる授業実践。・定期的な児童アンケートの実施。・普段から、担任と児童とのつながりを確立させ、何でも言える担任であること。

関係機関との連携

「学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。

日頃の児童の行動観察をきめ細かに行くとともに、定期的に行ういじめアンケートの質問項目を検討し、児童がどのようなことでも打ち明けられやすいようにしている。また、学校だよりやホームページで『いじめ防止対策推進法』や学校の『いじめ防止対策基本方針』を紹介し、保護者にも理解を求めている。

**5. 子どもたちが健やかに成長し、自立できる社会を実現するためには家庭や地域との連携が不可欠ですが、必要な連携や支援はどのようなものですか？ また、連携する際の問題点などはありますか？**

・子どもたちの細かな変化・SOSを見逃さない教職員の目の育成に取り組んでいる。気になったときの複数教員での家庭訪問。  
・取組み→上記の徹底・学校全体での共有・関係機関との連携

子どもの良いところ、頑張っている事を保護者に伝え、母子共に自信を持って支え合う家庭を築いていけるように支援する。

地域の巡回訪問、見回りなど。人の目があることで抑止になることも多いと思います。地域コミュニティとつながる選択肢が広がると、家庭からももう少し関わりへの抵抗が薄まると思います(気楽に参加できるイベントなどを通して)。

送迎時にまんべんなく声を掛け困っていることがないかを聞き出すようにしている。地域に出る機会を増やしていきたい。

核家庭が増えてきている中で、地域でのつながりが薄くなってきているので、普段から関わったり、相談できる場となるよう、地域でのイベントや取組みがあればと思う。取組みをすすめるリーダー的な人が各地域にいないので、代わりに行ってくれる団体があればと思う。

家庭の事情で一時的に通園困難児出る地域で登校園を支援できないか園の所在地域と園児居住地が遠く離れているなど2地域との連携が困難。

子育て相談など、保護者が受け入れられるかどうか、信頼関係を築くのが、なかなか難しい

今は経済的・精神的に自分の家庭のことだけで精一杯の家庭が多いと思われる。また家庭の視野が狭くなり自己のことでいっぱい、となり地域のことで考える余裕がなくなってきている。若年層・高齢者層の考え方のギャップから関わりも希薄である。

各地区福祉委員会活動(子育てサロン)等への参加、遊びの教室や園庭開放への参加。スマイルサポーターの支援活動

○些細な事でも相談できる、安心して子どもを預けられるような園運営をする。

連携する時の問題点はそれぞれの機関の役割分担と情報共有が不十分な点。

超コンパクトシティー。

小学校との連携を求められていますが、こども園と小学校側に連携についての考えの違いがあるように思えます。小学校は、管理者が変わると以前から実施していた連携が途切れることが多々あります。

昔と違い核家族も増え、住民同士の繋がりも薄いので地域で子どもを見守る事が難しくなっていると思います。日ごろから保育園、幼稚園、小学校等子どもと関わる大人の役割が重要になってくる中では、幼、保、小の連携はもっととっていきべきなのではと思います。

安心・安全が最優先であると考えます。連携する団体や関係者との信頼関係がもてないと難しいと思います。年齢に応じて必要な支援が連携できるような取組みができるといいですね。

一人の子どもにかかわるすべての人、機関との連携が必要だと思います。学校、学校の先生、保護者、兄弟姉妹、通所支援施設の職員、相談員、主治医、ケースワーカーなど。先述した関係者、関係機関がすべて同時に支援を行うのではないので、申し送り等の際に支援者等の伝え方でズレが生じることがあり、また、学校や施設職員の入れ替わり等で引継ぎが上手くいかない時があると思っていますので、定期的に関係機関が集まって一度に状況報告等、現状と課題を共有する時を持つのが求められると考えています。

児童に関わる機関(園、学校、療育、家庭)等縦横の連携  
就学先で児童の様子が引き継がれていない場合もある

先の質問に対する回答にあるように、中学生に対する支援をもう少し充実できたらと思います。

将来の社会的自立につなぐためにも年少期から社会性を確立していく事が必要で子供の参加ぎ更に図られるような魅力ある自然体験活動や生活体験活動、地域活動、ボランティア活動等を積極的に地域との交流を図る。問題点としては地域住民の障がい福祉への理解や関心、主体性が低下している事。

子どものライフステージで、関わる機関が変わってしまう。その際に、これまでの関わり・支援がぶつぎれになってしまうことが問題点であると感じる。対応としては、ライフステージの変わる時期に、関わる機関(これまでに関わっていた機関とこれから関わる機関)が重なるように子どもと関わり、引継ぎを丁寧にする必要があると考える。

## 5. 子どもたちが健やかに成長し、自立できる社会を実現するためには家庭や地域との連携が不可欠ですが、必要な連携や支援はどのようなものですか？ また、連携する際の問題点などはありますか？

ご家庭や地域、学校や各事業所が長期的に成長過程を見守るような連携を行い、子どもたちがどの場所でも同じ方向性の支援を受けて安心して成長できるような環境作りが必要だと感じます。連携する際の問題点は連携する範囲や頻度が曖昧になり、子どもを取り巻く関係者が連携不足になることだと感じます。

家庭とは、気になる事があればすぐ報告してもらい、どのような子どもになって欲しいか？などの要望を聞き、こういう支援をしていきます。と個別支援計画を作り、保護者の方と同じ目線に立って支援しています。教職員と障がい福祉の支援員では、見る視点が違うので、連携を取るには難しいと思っています。学校側の意見を聞くと本人にとって良いことなのか？と疑問に思うことがありました。障がいを理解して下さる教職員を増やす必要があると思いました。

簡単に連絡が取り合えるものがほしい

・個別に対応した取り組みや、社会資源の提案、家庭の相談先の明確化が必要・問題点は、本人が置き去りになってしまう場合があること

子どもたちが地域でともに生きることの相互理解,地域と子どもたちの交流

必要な連携、支援は、行政だと思う。責任をもってスムーズ、かつスピーディに連携、支援が求められている。今、感じるのは、産後ケアや、生活支援など、いろいろな手続きが多すぎるように思う。今利用したい！今支援して欲しい、助けてほしい！という方がたくさんいる中で、人が足りなかったり、手続きが必要であったりとスピードに欠けている。支援センターと健康推進課は、密な連携が必要であるが、出先と役所内なので、保護者や子どもの様子を実際に見て連携していくのが難しい。近くだと手が空いた時や、今！の時に一緒に対応できる。

保護者との信頼関係が一番で、相手の立場になって考えることが大事だと思います。  
保護者と懇談の時間をとったり、送迎時に園での様子を話したりと普段からの関わりを大切にしています。

・役割の明確化・表情の見える、普段からの継続的な連携

学校と家庭の連携は重要だが、連携が必要な家庭ほど、連絡が取りにくい場合がある。また、行事の精選や、PTA活動の縮小など、地域との連携が以前ほど取れなくなっている面もある。家庭や地域との連携は大切だ、という意識を常に持ちながら、各家庭、各校区ごとに行えることをやっていたらいい。

・地域のみなさんと保護者とがじかに顔を合わせて、子育てについて、子どもたちの日常について情報共有できる場が必要であると思う。  
・個人情報保護の観点から、地域のみなさんに子どもの家庭での環境や特性を話すことができないため、問題点について踏み込んで対応することが難しい。

本校が大事にしている家庭・地域・学校の「顔と顔が見える関係づくり」が重要であると考えています。連携する場合は「本音を話せる関係づくり」が重要だと思っています。

## 6. これからの社会を生きる子どもたちに求められているものは何だと思いますか？

自分が本当にやりたい事を見つけ、和を持って他の人と関わり、楽しみながらやり遂げる為に、柔軟な考え方も持ち合わせる。

人とかかわる力、つながる力。関わりが苦手でも、この方法なら、を見つけていくこと。今後、どんどん希薄になっていく部分であると予測される。この力が育つことにより、自我、調整力が身につく、困ったときにヘルプを出すこともできる。

自分の考えを自分自身の言葉で伝える力。

自己肯定感をしっかりともち、社会に認められた居場所があることで、自らの行動できる意欲。

自らと他者を大切にできる優しい心。

自分で考える力、臨機応変力、柔軟性

人の話を聞く力・人とコミュニケーションをとる力・自分自身を大切にすること・どのようなことにも感謝する心・自分で考え行動する力  
他の人や動物を大切にできる心・他人の立場にたって考えることができる力・周りとの協力する力

情報化社会のため、行動が制限されるため、自主性・積極性が発揮できる子どもが少なくなっているように感じます。何事も自己主張ができ、しっかりと将来を見据えた根強く生きる子供たちが求められると思います。

## 6. これからの社会を生きる子どもたちに求められているものは何だと思いますか？

○自分は自分でいいんだ、支えてくれる人がいると自己肯定感をもつ。○強く、たくましく生きる力をつける。

親を含め様々な大人から愛されること。

・考えられる子

自己肯定感も持てるようにすることネットの中に生きるのではなく、色々な体験を積み重ねることです。

・自分で生きる力・周りに流されず自分で判断する力・自分の思いをしっかりと相手に伝えられる力が今後必要になってくるのかなと思います。

自主性でしょうか。少子化もあり自力でやり遂げる力が弱いと思います。小さいころから、自分でできる力を身に着けること、諦めない強い精神。

安心して生活できること。そのために日頃より支援者は何が子どもたちに不足しているのか課題を考えることが必要だと思います。これからの社会を生きる子どもたちのため、支援者として子どもたち一人ひとりの自立に向けて成長していけるようにしっかりと向き合っていきたいと思います。

子どもたちに関わる人たちの縦横連携

学んだ事を人生や社会に生かそうとする人間性。思考力、判断力、表現力など場所や状況に対応できる力を身につける。成功体験を多く積む。

自分で発信する力が求められると思う。すべてのことをできる完璧な人間はいないと思う。できないときに、しっかり周囲の人に助けが求められたり、自分の意思を表示できることが、変化の多いこれからの社会では必要な力であると思う。

自ら考えて善悪を判断して行動する力、周りに思いを伝えて相手の話を聞き人間関係を作っていく力、幸せに充実した人生を生きていくために必要な支援を受ける力だと感じます。

自立,自尊感情の形成,思いやり

忍耐力、聞き流す力

多様性のとらえ方の角度が様々過ぎて、アイデンティティの確立がむつかしくなっているようにおもいます。

自己理解,人間関係を築く力

自己肯定感につくる。つねに不安で自信がない。とにかく、小さい頃からの経験が大事。失敗や、成功、仲間とする経験の積み重ね。

自分の思いをしっかりと伝えと共に、相手の思いも受け入れられる柔軟な心。ひとりではなく、回りの人と関わって、助けあえる人付き合いや環境が大切だと思います。

・寛容力、突破力・論理的思考力・コミュニケーション力・世界全体の動き等に関わる情報収集力・判断力

愛情

スマホではなく、現実の社会でちゃんとコミュニケーションを取れること。子どもは、様々な体験を通して成長するものだから、めんどくさがらず、失敗を怖がりすぎず、いろんなことにチャレンジしてみる。周りの大人が、子どもたちの自尊心を育むような接し方をすること。

・学力と自己肯定感・他者と協働する力

コミュニケーション能力・強く生きる力

## 7. 「(仮称) 泉佐野市子ども基本条例」全般についての御意見をご記入ください。

全ての大人が、子どもを尊敬する心を持って対応する事を大切にして欲しい。子どもの心が、未来の社会を作ると言っても過言ではないので、まず大人が手本を示すと共に、子どもを心から愛する事で、豊かで温かい心を育てていくことが大切だと思う。

流行りにのって制定したような中身に終わらず、泉佐野市独自の課題を明確にして、より地域に即した内容の支援が広がることを期待します。

進捗状況を随時知らていただきたい。

## 7. 「（仮称）泉佐野市子ども基本条例」全般についての御意見をご記入ください。

形だけで終わることなく、子どもを守るものとなってほしい
子ども親も、この条例ができてよかったと思えるようなものを作ってください。
子どもオンリーの条例でなく、子どもを支援する大人にも配慮した内容であってほしい
PR不足で浸透されていない。内容も全て網羅するためか細かすぎる。
市の子育て支援課が、中心となり地域の意見や施設等の意見も取り込まれ、しっかりと市に沿った基本条例を作って頂きたいと思います。特に、0号認定「誰でも通園制度」については、我々も研修等で勉強しますが、市の子育て支援課の方にもしっかりと情報を把握して頂きたいと思います。また、市としては、0号認定の取り組みをどのようにするのか方向性があれば良いと思います。
〇子どもたちにとって明るい社会となるような条例になればいいと思う。
教職員同士の縦のつながりの強化と管理職の責任感強化
そういう条例があるという事を知らなかったので、これから学んでいきたいと思います。
教育現場（保育所・幼稚園・学校など）の教職員の質や、スキルばかりが子どもの成長に影響があるわけではなく、やはり家庭環境や保護者の方の子どものかかわり方にも問題がある場合があると思います。 食事や睡眠、遊びなどがわからず、同じものばかり好きなものばかり食べさせる、ゲームやスマホを持たせて一人遊びをさせてしまったりすることで言葉の遅れや、体の成長の遅れがある場合もあるように思います。助けを必要とする大人（保護者）にも目を向けてほしい。
地域自立支援協議会においても以前は児童分野のほうは薄かったですが、徐々に広く展開してきていると思っています。このように子どもの分野にも視野が広がり条例が制定されることは大切だと思っています。
子供主体の条例を希望します。
今春から、子ども家庭庁も創設され、国としても、子どもへの支援の大切さを前面に押し出していると感じる。 市としても、「（仮称）泉佐野市子ども基本条例」の制定をするなかで、子どもへの支援の実施を進めてくださっていると感している。地域によって子どもを取り巻く環境には違いがあるので、ぜひ泉佐野市に現状にあった施策になるように期待しています。
泉佐野市に居住する全ての子どもたちが、幸せに生きていく権利が保障される条例となることを願っています。
子どもの貧困とヤングケアラーへの支援を学校と連携してはどうでしょうか。不登校児の学校以外の外出先を増やしてほしいインクルーシブにむけて、保育・教育の先生方へ支援教育の充実を願います。（私立も含めて！）
期待しています
国家にとって子どもは将来の一国を担う、国の宝です。子どもを社会の中心に据えて、周りの大人が皆で育てていくことはとても大切なことですので、本条例には本当に期待しています。と同時に、周りの大人側の意識や体制づくりが一番大切であると感じています。
しっかりと子どもの意見を取り入るのはわかるが、学校関係者があとから意見ややらないといけなくなるのがたくさん感じる。連携をとるときは間を挟まず直接できないか。
子どもを中心とした条例ができることは、とてもいいことだと思う。助けを必要としている子どもや家庭が、少しでも救われるような条例を期待します。子どもや社会的弱者に優しい市になって欲しいです。
特にありません。